

愛媛大学教育学部

第 108 号

同窓会報

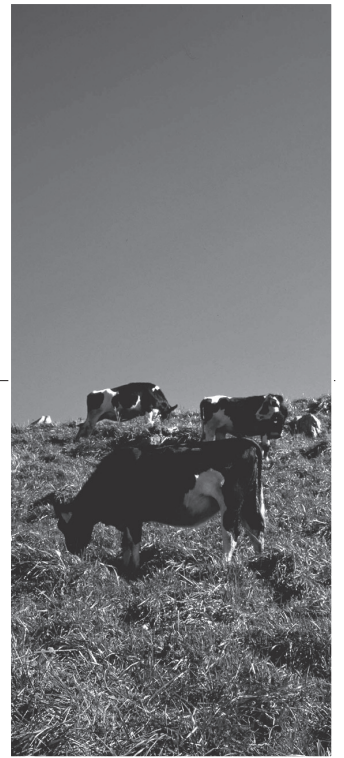


愛媛大学教育学部同窓会事務局

☎ 790-8577 松山市文京町3番
愛媛大学教育学部学務係室内

☎ (089)927-9383(直通) FAX(089)927-8304

E-mail : dosokai@ed.ehime-u.ac.jp



窓



同窓会会長

奥定 一孝

(昭三八卒)

愛媛大学は、今年十一月に創立六十周年を迎える。法人化後の将来、大学と地域とを結ぶ拠点ともなりうる愛媛大学会館(仮称)建設や、大学が保有する宇宙や生命に関する多様な資料を展示する館、愛媛大学ミュージアムの設立などの記念事業が今着々と進められている。時代的な閉塞感を払拭するかのよう、今大学には新たな時代に切り変わろうとする気運が感じられる。

学び舎である教育学部も、耐震構造化をきっかけにして、今年度から建物全体が新しい装いに改装された。広いフロアーの各所に設けられた学生中心のリフレッシュコーナー。各教室にしつらえられ

た新しい視聴覚機材。自動ロック化された共通の管理室。その間を磁気カードを首にかけ、忙しく行き交う職員の方たち。いろいろな場の変容ぶりに立ち会うたびに驚き、また今昔の思いも深い。

明るいページユ色に統一された階段を上るたびに、四十数年前に学んだ木造の校舎の感触が足元からよみがえるのは何故だろうか。油引きのにおいのする階段が、しかもぎしぎしきしむ音までも加

わって意識に上ってくるなど、これまでなかったことである。その階段を上りきったところに絵画の実習室があった。時々横殴りの雨のしみこむ、がたがた音のする窓の向こうは、城北練兵場の名残のする草むらで、先生の声のかかるぎりぎりまで、文字通りの草野球を楽しむんだ光景が広がるのである。同時代を過ごした者たちは、確かにこれに似たような光景、おなじような窓を共有しているに違いない。

同じ学校、または同期の卒業生を、同じ窓の下で学ぶ意味の「同

窓」と呼ぶ。その漢字のよって来るところは定かではないが、わが国近代の心情を十分に汲んだ、絶妙な言語の一つにあげられるのではなからうか。さて、今の学生は、真新しくなったこの学び舎を後にしたときには、どんなイメージの広がる窓を共有するであろうか。時々所用で訪れる母校の真新しい階段を踏みしめながら、ふとそんな思いに駆られるのである。

象徴的な窓を通して、その時々の人との出会いや出来事に広がっていく。同時代を生き、模索してきた窓とは何か。母校を介して時々開けられる窓は、これからの時代を見据える一つの尺度となることだけは確かである。会員同士をつなぐ唯一の絆とも言える「同窓会報」は、そういった意味でこれから益々重要な窓の役目になることになろう。

紙面の充実はもとより、会報でできる限り漏れなく会員に配布できるように、手だてを講じる必要に迫られている。近年、卒業生の多様な職種、職場への進出の顕著な状況下にあつてはなおさらである。母校への思いは、もう窓というような口マンチックな言葉ではなくくりきれないものに変質しつつあるとはいえ、同窓に対する意識の程度は時代を超えて変わることはない。会報に限らず、私たちの同窓会も、時代の意識変化に対する許容力をこれからも持ち合わせたいものである。

地域に根ざす大学づくりに向けて、大学・学部から同窓会に寄せられる同窓会のありようもまた求められてきている。

同窓会伊予支部が昨年末に行つた「はばたけ伊予っ子」芸能・文化活動発表会は、同窓会の活動に新しいページを開いたことでまさに画期的であり、前号の会報で紹介したとおり、大きな共感を呼んだことは記憶に新しい。今後とも私たちの同窓会が、支部活動を軸に、地域の教育・文化の発展に向けて活動の場を広げていけることを大いに期待したいものである。

私事で恐縮ですが、本来ならこの場を借りて、この度同窓会長としての四年間の任期を無事終えることができたことをご報告し、お世話いただいた会員、役員の方々にお礼と退任のご挨拶を申し上げます。しかし諸般の事情と、懸案だった会則の改定が、この度長期的な視野で認められたことにより、変則的ですが、新たに任期となった二年を、引き続き会長の任にあたることと相成りました。この大切な時期の二年間を、微力ながら教育学部同窓会の発展に努めてまいる所存です。ここにあらためて皆様の更なるお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

目次

表紙	坪内 和男
書	元愛媛大学教育学部教授
題字	菊川 國夫
「窓」	奥定 一孝
同窓会長	奥定 一孝
心 響	(2)
「愛CLEAN」チーム	鳥谷真由美
学部の今	(3)
「研究室訪問 白松賢先生今日は」	
「総合研究棟耐震工事完了」	
「今学部はこんな実習しています」	
「ふるさと実習報告」	
三回生 植村 公貴・坂根 佳恵	
表紙作品「土」について	坪内 和男
(7)	
職場便り	(7)
「ありがとう川之江小学校」	
四国中央・川之江小教諭 田湖 美保	
「新たな歩み」	
西条・玉津小教諭 宮崎 志穂	
「大きい学校」	
東温・上林小教諭 角谷 亨	
「振り返って思うこと」	
喜多郡・内子中教諭 渡邊 和孝	
「聴く楽しさを共感しながら」	
県立松山聾学校教諭 中矢 温子	
「生かされて生きる」	
西予・城川中教諭 富本 周作	
教育学部同窓会ホームページ	
開設のお知らせ	(11)
海外便り	(13)
「アメリカで娘の入学式を迎えて」	
岩田 麻美	
学部最近のニュース	(14)
文 芸	(15)
川柳	日野 厚生

学部の今



研究室訪問

白松 賢先生今日は

新緑が陽光に輝く四月の下旬、改装も終わり、清潔で明るくなつた教育学部一号館二階にある白松先生の研究室を訪ねました。

先生は愛大教育学部準教授として、学部内は言うまでもなく、愛媛教育界からの要請を受け多方面で大活躍をされている新進気鋭の先生です。

先生のお人柄からくる柔らかい雰囲気につつまれながら、次のようなお話を聞かせていただいた。

学生を育てるキーワード

学生達を育てて行くに当たって、一番心がけていることとして、「人に感謝される経験をできるだけ沢山させるようにしています。」卒業生をみてきて、思うことは、人のために行動して、自分の言動力にまで生かしている学生は、教員になって伸びているし、企業に入っても非常に伸びているなど強く感じています。

ワクチャレにしてもそうなんです、子どもや学校、地域の方々から感謝の声が一番届きやすいような活動の中で、学生達が経験を積んでいくと、感謝をベースに何事にも積極的に仕事をしたいける

など感じました。

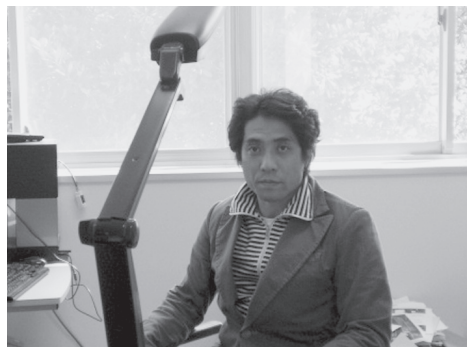
ワクチャレ、学習支援アシスタントにしろ、社会教育施設のいろいろな所へ出て行けるように、できるだけ学校現場、社会教育現場と協力関係を結ぶのはわれわれの仕事でないかと考えています。

教育学部生としての在り方

一、二回生については、子どもと触れあうことが楽しいと言う経験をjもてば、とりあえず教員になつていく大きな素養が身につけてきて、学習等で躓いている子どもを支えてやりたいなどと、子どもとの関わりの方が身につけていってほしいものです。それが三回生になると指導力に目を向けたとき、教材解釈の甘さに気がついてほしいのです。

ワクチャレ活動の中で、OBの方に指導助言に加わってもらい、特に強く感じることは、OBの先生方は、学習指導要領の改訂を何度か経験してきていて、教材研究、教材解釈の深さが非常に大きいという事です。学生達の最近の関心にしろ、今の現場の先生方もそうじゃないかと思うのですが、直ぐにうまく子どもに教えていく方

法とかを手にしたと考えていることです。そのようなことは現場に出ればいくらでもいろんな先生の経験値から学んでいけると思うのですが、今から学んでいくよりも、教材解釈をできるだけ深く多角的に課題を見つけていくようにすることが学生にあつたらいいかと期待しています。



四回生になつて徐々に自分はこのいう授業スタイルが自分に合っているのではないかと、自分の指導スタイルが形成されていって、

愛媛県の学校現場を見て

学校現場もちょっとしたことばに影響されやすいので、子どももしっかりさせる所まで行くのは非常にレベルが高いのではないかと、学校現場を見ていて非常に悲しくなることは、児童会にしろ生徒会にしろ、あまり自立していない活動が多いどころか、職員室の下

請けと言つたイメージが強いことです。子どもたちがしっかりと自分達で活動していけるような児童会、生徒会というものにならないのか。子どもが協力してくれないければ学校の本質的な活動はできません。

あるところでは、生徒も教師も横並びに考える部分と、しっかりと教師が上に立たねばならない部分と、しっかりと教師が手を引く部分とがなければならぬことです。そのへんを学校経営の中で、どこかその点がだんだん磨かれている傾向が見えてきています。

学力の向上にしても、行政の旗振りが非常に現場にダイレクトに降りてきています。もうちょっと人権感覚豊に現場は主体的にもつていただきたい。「いじめ0」とか「学力向上」とか、キーワードでポイントと直接出てくる。実際現場の中でそれをするには、もう少しじっくりといろんなステップを踏んでいかなければなりません。

「早寝早起き朝ご飯」を提唱したら、至る所で取り上げられ、PTAでの会合でも取り上げられています。しかし、家庭の事情で保護者が夜勤をしていたり、夫婦共稼ぎをしていたりしている家庭、不定期な時間働いていて時間が決まっていない家庭とかの子どもたちにとっては、その言葉がかえって子どもたちを苦しめているのですね。本当に子ども一人一人をみていったとき、その言葉はきつくないか、その上でどう対処すればいいのかまでも踏み込んで話さないと、何か表面だけのつじつまを合わせているのではないかと思

います。そのスローガンが達成されなく

でも、学力向上を達成している学校が存在するものです。ではそれはどのような学校であり、学級なのかについてちゃんと見てみよう、そこでこんな学校、学級を創つていったらと、いろんな背景をもつ子どもも学び合いができるのではないかとかとの提示をしたいものです。

できれば教育委員会をはじめ、行政の方でスローガンを出すのであれば、それに対するモデルとなるようなケースというものをしっかりと把握した上で実施していただきたいものです。統計的に出たからこうしようと言うだけのことで子どもたちの人権を軽んじている面が多いのではないのでしょうか。最近そのへんに対する抵抗があります。

子どもたちが学ぶ楽しさと学校でいろいろな人と関わるしんどさも乗り越えて楽しさを知るとか、それをもとに丁寧に考えていくとかの経験をしていく結果として学力アップやイメージアップにつながっていくことを先生達が理解していく方が私は大事なことだと思

います。今は結果を先に出してしまつて、それに帳尻を合わせるといった形の学校経営になつてきているので、逆に過程をしっかりと評価できる目をしっかりと創つて行くべきです。ここは、今は学力をはつきりと達成できないけれどこの学校でやっているこの取り組みのプロセスは素晴らしいではないか、と言う点をしっかりと評価できる目を是非十分育てていくべきではないかということが、我々研究世界の役目ではないかと考えます。特に行政、管理職の方々にはそうい

う目線が一番もって頂きたいなど期待しています。

今時の学生気質

今の学生は良くも悪くも真面目になってきていると思います。表面にエネルギーを出さないというのが全体的若者の傾向といえます。

できるだけ表面にエネルギーを見せず、淡々と課題をこなしています。「平成でもしか」の若者は、何でも言われたことしかししなとの世代になっていきます。その気風がずっと継承されていて、すごくまじめで授業も熱心に出席していて、しかも礼儀正しい。このことを正しく評価されているかと言えそうでもない。なにかこうしているのか。結局突き抜けてよい人間になろうとか言うエネルギーで行動していかなければ、もつと若い時分にやりたいことをバンバンやっつけていこうと、そのエネルギー量を表面に出していこうとする姿がずいぶん見えにくくなっています。

それを表面に出したらいいよというのを教えるのが大学かなともかんじています。ある企業の社長さんが「大学時代にバリバリやっていた学生が会社に入ってもやはりバリバリやっている。そこそこやっていた学生はやはり会社でもそこそこで、器用にこなしている。大学時代に何かするにもエネルギーが湧かなかつた者は会社に入っても無力である」と言われていました。

人間のバイタリティーと行動力は基本原則が変わらないので、大学でできるだけバイタリティーのある人を育てて欲しい。その教えが減っていると言われています。その意識で学生を見るように

なってしまうました。留年をしてもいいからもつといろいろな体験的行動をやっちゃおうとする者が増えてもいいのではないかと思います。

卒業生・同窓会への願い

卒業生に願うことは、先輩が憧れるモデルになってほしいもの。ああ言う熱心で輝いている大人になりたいなと思われる人になって欲しいもの。私が校内研究に招かれ私の話を聞く機会をもった卒業生が「少し話の入り方は違って来ましたが基本的に先生は変わっていないですね。」と。

個人的にはかなり成長してきているとおもっているのですが。いろんな先生に関わってきて、当時言われたことが、今生きてはたっていることも多々ありました。また、いろんな人との話し合いの機会をもってもらいたい。光っている先生から輝きをもらい、それを先輩に渡して、いつてほしいし、私もそうありたいと常に考えています。

同窓会への願いとしては、同窓会を中心として、年に一回シンポジウム的なものを開催して欲しい。大学のカリキュラムに組み込めたら組み込んでいきたいものです。いろいろな世代の先輩OBから、今の学部学生は教師になるのだったらこんな経験をしてほしいとかのアドバイスをするとかの機会がもてるとう嬉しい。今教員になってこういうような点で課題を感じているし、こんなところでやる気を感じたりしているように、生々しい話はOBと先輩後輩の間柄、関係でやってもらうとありがたい。できれば二十代の先生

と学生とか、三十代の主任クラスとか、管理職としての関係とかのアドバイスをして頂けたらと願っています。その後は、小集団グループでディスカッションをしたり、後はOBとの集まりの飲み会とかをするのも面白いです。

同窓会では是非とも創って頂きたいのは、学生への就職サポートグループ、ボランティアグループを創って頂きたい。

学習支援に行っている学生が、自分の支援活動で躓いたとき、課題を感じたりしたとき、アドバイスを頂き、SOSがでたときとそこへ行って頂きたいです。

また学生を育てる初任研のようなスキルアップ研修のようなスタイル的なスタッフ構成を設立して欲しいものです。教員退職者は学校現場の守秘義務を十分熟知しているから教科グループ、生徒指導グループとか小学校の子どもの中心のグループとか特別支援・養護グループ等を人材バンク化されてのパーティを構成していただきたい。

こちらからスムーズに発注出来るとうありがたいです。

人材バンク化していつて、支援ルームからダイレクトに連絡しあえたらいい。これ等を今年度早急に計画を立てたいものです。

先生のお話は豊かで、その引き出しの多さに驚きました。研究室に爽やかに流れる五月の風と、アカデミックな雰囲気の中で、充実した時間を過ごさせて頂きました。



総合研究棟(教育系)

(旧教育学部1号館)

耐震改修工事が完了しました

平成十九年度から地震対策のため、愛媛大学キャンパス内の総合研究棟総てを対象として、図書館を皮切りに耐震改修工事が施行され、総合研究棟(教育系) 教育学部二号館は平成十九年七月から施工され、完成後、平成二十年八月十日から中枢機能がある旧一号館が改修工事に入り、平成二十一年三月の卒業式前に総てが完了しました。

改修された研究棟は、当然とはいえ全体的に落ち着いた明るい雰囲気を出しています。

施設は、エコ・省エネを配慮して廊下は感知式照明になっていきます。また、学生さんが楽しい学生生活ができるよう一、二、四階にはリフレッシュルームが設置されています。その他新設されたものとしては、「歩ける人は階段を」と脇に書かれたエレベーター、各部屋には、室温調節を配慮したエアコン、シャッター・網戸等があります。

改修後、新しい設備としては、



改修完了後の風景、玄関は自動ドアになった



玄関からの改修工事風景



明るく落ち着いた雰囲気のリフレッシュルーム



一階エレベーター横から見た、明るく輝く廊下



今学部は

こんな実習をしています

四年間で様々な実習を行い、
実践を積み上げることが出来ます。

四年次

応用実習・他校種実習

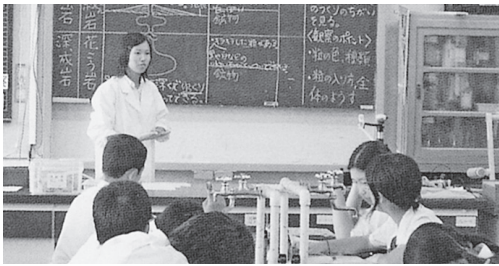
四年生では、公立校での実習を通して教科指導力や生徒指導力を向上させたり、学校種の異なる学校で、子どもの発達を深く理解します。



三年次

教育実習

三年生では五週間、附属校園で教育実習を行います。一人で教壇に立って、授業や学級をまとめます。



二年次

プレ教育実習

(実践省察研究Ⅰ)

来年の教育実習に向け、三年生の姿を観察して、授業の構成や教材研究の方法を身につけます。



一年次

観察実習

一年生では、附属校園などで、授業や子どもの活動を観察します。授業を受ける立場から授業をする立場へと、授業の見方を変えていきます。



ふるさと実習

(教育実践体験実習)

二年生では、ふるさと(出身校)で、教師の仕事全般を観察します。授業だけでなく、学級経営や放課後の部活指導など、教員という職業を直接肌で感じます。



地域連携の授業科目

(省察科目)

実習経験を大学で深めるための省察科目も充実しています。教育機関や学校現場の先生を大学に招き、現代的な教育課題についての講義やディスカッションなど、教員に求められる実践的な知識を学びます。



愛媛県警による不審者対策の指導



「えひめ授業の鉄人」によるわかる授業のための講義



教育実践体験を振り返り、学びの質を高めます

●教育実践演習

●教職教養課題特講

ふるさと実習 報告

平成20年度教育実践体験実習



三回生
植村 公貴

一、実習の概要

私の実習期間は月曜日に運動会の振り替え休日があったため、四日間だった。その間具体的にどんなことをしたのか以下に述べていきたい。

主な活動は授業の観察、部活動への参加などである。授業観察では、中学一〜三年生の社会科、一年生の道徳、総合的な学習、そしてその他にも二年生の英語や理科の授業を見させていただいた。部活動では野球部の練習に参加した。

他の活動としては、生徒と一緒に給食を食べたり、掃除をしたりと学校の活動全般に関わることができた。それに、朝の教職員の朝会や校門でのあいさつ運動、生活ノートへのコメント記入など初めて体験する活動もあった。

また、全校朝会や総合的な学習、帰りのHRなどで多くの生徒を前に発言をさせていただく機会もあり、このようなことは普段ないことなので特に貴重な体験であった。

た。

この四日間で、全てではないが授業等以外の生徒の様子や先生の仕事などに触れることができ、今後の教育実習に向けての良い心構えができた。

二、実習で学んだこと、印象に残ったこと

私が今回の実習で最も印象に残ったのは、実習担当の先生の教師に対する思いである。

私の実習担当の先生は、中学校一年生のクラスを受け持たれていた。この先生の学級経営のスタンスは非常に明確であった。それは、本音で生徒と接するということだ。先生が実習日誌のなかで言われていたことで、それを象徴する言葉があった。そのまま引用したい。「先生っていうのはついつい先生としてきれいなことを言いたがるものです。しかし、学校というのは何といても人と人との関わり。理想を語りつつ、なるべく本音をぶつけていく先生でありたいものです。生徒は先生をよく見ている。これは本音の言葉であるのか、本当に自分たちのことを思っている言葉なんだろうか。そういう意味では先生というのは、人間性の勝負だと思います。私のようなダメ人間でもダメ人間なりに精一杯やってみよう」という姿を見たいといつも思っています。人と人とのぶつかり合いはしんどいですが、正直なところ……でも得るものも大きいんです。そこが先生のやりがいなんだと思います。」
今まで本音で生徒と向き合っていたからこそ、このような言葉がでてくるのだと強く感じた。非常に重く、心に響く言葉であった。

あたり前ではあるが、私がこの先生と過ごしたのはたった四日間である。それにも関わらず、何の経験もない未熟な私に対し先生はここまで真剣に自らの思いを綴ってくださった。本音で人と接するという先生の姿勢がそこにも表れていたように感じた。「先生」とばを胸に今後も頑張っていきたい。



三回生
坂根 佳恵

一、実習の概要

一週間を通して、朝は教室で登校してきた子ども達を迎えることから一日が始まった。そして、授業中は子ども達の声かけや、困っている子どもへのサポートを行った。休み時間には、子ども達とドッチボールをしたり、鬼ごっこをしたり一緒に遊んだ。掃除では、教室掃除を一緒に行った。帰

りの会終了後教室で子ども達を送り、放課後実習担当教諭との一日の振り返りとして、授業を見ての感想や授業を見る時の視点について討論をしたり、先生の子どもの達への想いについて話を聞いたりした。

また、実習三日目にはTTでの授業をさせていただいた。この授業では、言葉だけでなくジェスチャーや表情を使って、コミュニケーションを図るということをした。最後に、手話にも触れて子ども達に興味を持ってもらうことができた。そして、次の日には音楽の授業を実際にさせていただいた。最初は、子ども達へのテーマの示し方が弱かったために、取捨がつかない状態になってしまった。しかし、後半からは子ども達のグループワークにも積極的に関わっていくことができた。最終的に自分がやりたかった事を行えたのではないかと思う。

最終日には、校外学習でスーパリー見学の授業にも参加させていただいた。通常の授業とは違い、いろんなことに興味を持つので出発する前の約束などの確認、何をするために行くのかという目的の確認などを徹底することの大切さを学んだ。また、校外学習の場合、様々な状況を考えて服装や写真などの記録をすることが必要だと感じた。

二、実習で学んだこと、印象に残ったこと

一番強く感じたのは、教師の言

葉が子ども達にとっても大きな影響を与えているということである。授業中の説明でも、身近なものに置き換えて説明すると子ども達の反応が全く違ってきたり、注意する時も、注意するだけでなくその後必ず褒めたりフォローをする、注意された後も集中して授業に参加していたように感じた。言葉をかける時も、タイミングや、選ぶ言葉一つで反応はもろもろその後授業の展開も大きく変わっていくということを感じた。

次に、担当教諭から「昼休みに職員室で仕事をすれば家に帰ると楽なんだけど、休み時間にしか見られない子ども達の姿をやっぱりきちんと見るべきだと思う。学校でやれば一時間で終わる仕事でも、家だとそうはいかないから大変なんだけどね。でもそれでも休み時間は子ども達と過ごしてほしいんだよね。」と言われたことが強く印象に残っている。授業中と休み時間では子ども達の様子が全く違う。私も、休み時間に子ども達と一緒に話を聞いてみることも、子ども達と一緒に過ごすことで、子ども達ももちろん、子どもと教師の距離を縮め、クラスの団結や信頼を築いていけるのではないかと

思った。

職場だより



ありがとう

川之江小学校



四国中央市
川之江小教諭
田淵 美保
(平十三卒)

昨年、新規採用教員として、四国中央市立川之江小学校に着任しました。川之江小学校は、数年前に講師として一学期間だけではありませんでしたが、お世話になった学校で、新鮮な気持ちと懐かしい気持ちでいっぱいでした。

前回、講師として川之江小学校に赴任した当時、私は結婚して半年足らずで、「今年こそ、採用試験に合格するぞ。」と気合いが入っていました。三年生の学級担任となり、素晴らしい先生方と一緒に仕事をさせてもらい、毎日楽しくて仕方なかったことを、今も鮮明に覚えています。学年主任の先生は、とにかく子どもが大好きで、いつも子どもたちの笑顔に囲まれています。七夕には自宅から大きな笹を運び、短冊を飾って、帰りには一人一人に小分けして持ち帰らせる。それを四学級分ご用意くださるパワーの持ち主で

した。子どもたちの短冊には、「来年も〇〇先生(主任)のクラスになれますように。」と書かれてありました。そんな子どもたちの気持ちがいかによく分かりました。そして、そんな風に思われる教師に私もなりたいたく思いました。多くのことを学び、少しでも自分のものにしたいたく意欲に満ちていた矢先、自分自身の妊娠が発覚しました。ちょうど採用試験の要項が発表される時期と重なり、複雑な気持ちと、不安を抱え、校長室を訪ねました。これまで、採用試験合格、教師になる、という目標に向けて生活してきた私にとっては、重大なことに感じられました。しかし、そんな私に校長先生は、笑顔でこうおっしゃいました。

「おめでどう。よかったね。少し遠回りになるかもしれないけど、母親になって、教師として大切なものを得ることになると思うよ。そしてまた、頑張ればいいじゃない。素敵な教師になれるわよ。」言いようのない緊張感から開放され、校長先生の言葉が心にしみ、涙がこぼれました。

このときの川之江小学校での温かい思い出は、その後の私の心の支えとなりました。夢をあきらめそうになったとき、くじけそうにな

ったときに、思いおこし、頑張る勇気を与えてもらいました。

たくさんの出会いと多くの支えがあったのは昨年から、再び川之江小学校で子どもたちと楽しい日々を過ごさせてもらっています。昨年は五年生の学級担任をさせてもらいました。久しぶりの川之江小学校で分らないことも多い中、子どもたちに助けられ感謝の毎日でした。初任者ということ、出張も多く慌ただしい一年でしたが、私にとって忘れられない一年間になりました。

特に思い出深いのは、運動会です。本校は学年ごとのクラスマッチ形式で、五年生は四学級対抗でした。二期が始まり、運動会に向けてやる気一杯の担任に対し、子どもたちの反応は、「優勝は〇組よ。うちのクラスは三位か四位だよ。」という後ろ向きなものでした。確かに、運動は得意な方ではないかも……とは思いましたが、それにしても、始めからこれでは！と、ますますやる気が火がつきました。「子どもたちを本気にさせる」私の大きな目標ができました。走力では他のクラスにかなわないかもしれないけれど、団体種目なら何とかなるかも、と子どもたちと一緒に作戦会議を開き、自主練習を重ね、作戦を改善し……練習では確実に一位がとれるようになりました。こうなると、子どもたちの目にも期待に満ちた光が見えてきました。

そして運動会当日。徒競走はや

や出遅れ、しかし次の団体種目は練習の甲斐があつて本番も一位。午後からの借り物競争では運も味方して総合得点一位に。最終種目の学級代表リレーで最下位にさえならなければ優勝確実！というところまでできました。

結果は……。第一走者がトップでバトンを渡し、それをつないで、二位をキープし、優勝か！と思つたところでまさかのバトンミス。残念ながら優勝は逃してしまいました。教室に戻った子どもたちの表情は晴れやかでした。どの子どもも優勝を信じて全力を出し切った悔いのない顔をしていました。ただ一人、バトンを落とした児童だけが、しょんぼりとしていました。その子は学級で一番の走力をもつ、エースでした。「〇〇さんがいたから、みんな優勝できるって信じて走れたし、本気で応援できただよ。〇〇さんがいないかったら、今日の感動はなかったよ。本当にありがとう。」心からそう思いました。学級の子どもたちも大きくうなずきました。

無限の可能性に満ちた子どもたちと過ごせる日々は感動の連続です。私に、夢をあきらめないパワーとなる思い出を与えてくれた川之江小学校。子どもたちに夢を与えられるような、そんな教師になり、少しでも恩返しができたらと思っています。

☎ 799-0413 四国中央市中曾根町
六六一一六〇

表紙作品について

「土」



作者
坪内 和男
(昭三九卒)

退職後ゆとりができ、家庭菜園をやってみようと(昔とったきねづか)土づくりから取り組んだ。そして、あらためて土の凄さに驚かされた。

最近、化学肥料に頼っているが、その昔は、残飯や腐敗物、糞に至るまで土に埋め込んだ。土はその全てを受け入れた。

私も当時に習って、できるだけ自然の物を利用して、畑にばらまいている。時機をみて耕し、土に混ぜ込んでおく。何日かすると土はそれをうまく調和させ、より良い土壌に変えている。

人もこの土のようでありたい。日々起こり得るであろう、つらいことやいやなこと、不平や不満など、それらを全部受け入れて、そして、自分流に浄化し、いつか新しいエネルギーへとかえていく。

いま、畑を耕しながら、土の静かで地味ではあるが、底知れぬ力強さ、やさしさを感ずき、作品に込めてみた。

略歴・(現在も含む)

昭39 愛媛大学教育学部卒業
平14 伊予市立北山崎小学校
定年退職

☎ 799-3103 伊予市上野一七三三

新たな歩み



西条市
玉津小教諭
宮崎 志穂
(平十九卒)

この春、ずっと待ち続けていた夢が叶いました。大学四回生から教員採用試験を受け始め、同じ志を持った友人、講師をさせていただいた学校の先生方や家族に支えられながら、三度目に合格することができました。今年の四月から、新規採用教員として、西条市立玉津小学校に着任しました。

大学を卒業して、一年目は新居浜市の大生院小学校で講師をさせていただくこととなり、二年生の担任を務めました。何をすることも初めてのことはばかりで、最初は緊張がほぐれず、周りの先生方にはご迷惑をかけるばかりでしたが、一つひとつのことを丁寧に教えていただき、様々な経験をする事ができました。また、自然に囲まれた学校の子どもたちはとても素直で、人なつっこく、朝、教室に入るとすぐに私の側まで駆け寄っ

て、昨日の出来事やちよつとしたことをわいわいと話しかけてくれました。特に、休日明けは、話したいことが山ほどあるようで、一日中、聖徳太子状態になることもしばしばでした。初めての学級担任ということもあり、私自身未熟な面が多々ありましたが、その一年間は子どもたちと共に笑ったりと、悩んだりしながら成長することができたと思います。初めて受け持った子どもたちなので、特別な思い入れがあり、卒業するまで成長を見届けたいという思いがありました。離任式では、職員室でのあいさつで涙、全校の前でのあいさつで涙、担任した学級の子どもたちの前でも涙と、今までの人生の中で一番号泣した一日となりました。その時、教師という職業に対して、今までは違った気持ちで湧き上がりました。たった一年で子どもたちと別れる寂しさや悔しさもありましたが、それ以上に一刻も早く教師となり、授業研究や学級経営に全力を注ぎ、子どもたちの成長を継続的に見ていきたいと強く思いました。

用試験に挑戦する夏が来ました。大学生で受けた一回目、初めて講師をしながら慌ただしく受けた二回目は違う覚悟を持ち、背水の陣の意気込みで三日間に全勢力を注ぎました。

そしてこの春、小学校教諭となることができました。試験勉強と学校の仕事の両立の中、何度もうじけそうになりましたが、周りの人の励ましや、大好きな子どもたちの存在のおかげで乗り越えることが出来ました。

玉津小学校では、三年生の担任をしています。二年間、二年生の担任をしていたので、私自身も進級し、子どもたちと共に初めての教科や六時間授業に日々奮闘しています。玉津小学校の周りにはたくさん自然があふれ、教室からは線路を走るアンパンマン列車を見ることができると、伸び伸びとした環境です。地区でのスポーツも盛んなので、春になったばかりなのに真っ黒に日焼けした子の多さには驚きました。活発に動き回る時期の三年生は、さらにわんぱくで、元気いっぱいです。あいさつの声がとても大きく、休み

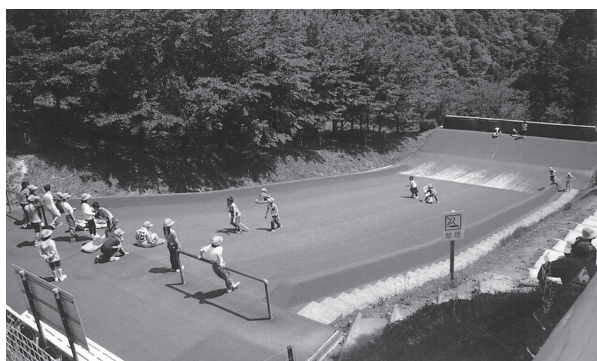
時間になると我先にボールを持って、運動場に飛び出していきます。彼らと出会って、一ヶ月が経ちました。素直で、どんなことにも興味を持つ子どもたちですが、学校生活にも慣れ、自分一人で出来ることが増えたぶん、私たち大人の想像を超えた行動をとり、ひやひやさせられることもあります。そんなエネルギーシユな子どもたちと一年間を共にするので、『元気・けじめ・チャレンジ』をモットーに、みんなが楽しく安心して過ごせる教室を目指していきたいと考えています。

私は、大学の四年間、子どもと関わることの出来るサークルに所属していました。それがきっかけで、子どもの目線に立つて考える楽しさや、子どもの笑顔に触れ合える教師という職業に魅力を感じました。しかし、実際に学校現場に入ると、想像以上の忙しさや、臨機応変な対応など、指導することの難しさに悩むことも多々あります。けれども、子どもの笑顔に励まされ、小さな成長に立ち会える喜びを実感しています。自分の力を役立てることが出来るなら、

教師という道を選ぶことに悔いはないと思うようになりました。

今年、初任者研修もあり、様々なことを学ぶ一年になりますが、二十九名の『げんきッズ』と共に何事も前向きに挑戦し、自分の出来る限りの努力を惜しまないよう、一日一日を大切にしていきたいと考えています。また、人との出会い、学び合う時間を積み重ねながら教師という道を歩んで行きたいと思います。

793-0035 西条市福武甲
(☎) 一一六三一四



大きい学校



東温市
上林小教諭
角谷 亨
(平十二卒)

私が本校に着任したのは昨年の春。本校は東温市の南にそびえる皿ヶ峰の裾野にあります。昨年度の全校児童数は三十九名。東温市の中では一番児童数の少ない学校です。小規模校で務めたことがなかった私は、喜びと期待で胸がいつばいでした。

そんな折、PTAと地域のみなさんが、着任した教職員の歓迎会を開いてくださいました。私はあいつの中で、本校に着任できた喜びを話しました。地域の方がたは、温かく迎えてくださいましたが、何かわだかまりがあるようにも感じました。私は話の中で上林小学校のことを「小さい学校」と言い、「小さい学校に務めてみたかった」「小さい学校に異動になつてうれしい」と話していたのです。地元の小学校を大切にする人たちにとって「小さい学校」というのはうれしい言葉ではありません。

私はあいつが終わってから、これはしまったと思いました。

それからしばらくして、私は子どもたち八人と社会科の学習で校区探検に出かけました。春の心地よい日差しを受けながら、私は初めて歩く上林を楽しんでいました。棚田を編むように複雑につながる道を、子どもたちとわくわくしながら歩きました。子どもたちも普段あまり行ったことのないところを探検したので、植物や川の様子にたくさん発見をしていました。この探検の途中で子どもたちは地域の方がたに出会い、地名の由来や生活の様子についてインタビューをしました。突然の声掛けにもここにこと答えていただきました。その後、インタビューをきっかけに子どもたちの学びはドラマチックに展開していききました。

この時すでに、私は「小さな学校」という表現が間違っていたことに気が始めていました。

このような学習の機会をはじめとして、この一年間、地域の方とのかかわりがたくさんありました。

その中でも「上林を考える会」

が上林の里を環境特区にすることを目指して行った「上林ひまわりプロジェクト」は、学校・家庭・地域をつなぐ大きな取り組みでした。子どもたちが地域の人たちと一緒に種をまいて育てたヒマワリは夏に大きな花をつけました。ヒマワリの苗は地域の各家庭にも配られ、まるで上林がヒマワリに包まれていくようでした。収穫した種から油を絞る体験もしました。

その「上林エコサラ油」を使って、自分たちで育てたサツマイモを天ぷらにしました。さらに、その廃食油からディーゼルエンジン用燃料を精製する実験もしました。また、地域の方の指導で毎年収穫しているもち米も自分たちで田植え・稲刈りをして、もちつきをしました。これらの体験すべてを全校児童が、地域の方や地域の保育所の子どもたちと一緒にやってい

るのでした。本校の子どもたちは、いつでも地域の一員であることを感じながら成長しています。

この他にも、たくさんの方に地域の方が協力してくださっています。これらは、学校の方だけではできない教育活動です。何より、子どもたちにいろんなことを

体験させてやりたいとの熱い思いから、地域の人たちが申し出てくださるご厚意に、本当に頭が下がります。

私も本校に着任してから変わりました。子どもを学校の外に出して体験から学ばせたい、地域の自然・文化・人々から学ばせたいと願う気持ちが強くなりました。そのため、地域の方に電話をかけたり、手紙を出したりしました。地域の方はみなさん笑顔で協力してくださいます。

そういえば、東京にある母の実家の地も、私の幼少の頃は田畑が広がる農村でした。当時私は近くの市に住んでいて、その土地へ行くのが楽しみでした。田んぼのそばでザリガニを捕ったりホテルを追いかけたりしていました。開発が進み、住宅地になってからはありますが、私の家族もそこへ移りました。考えてみると、上林の人たちの温かさは、幼少の頃に感じていたぬくもりに似ているところがあります。

私は、学生の頃から「地域に開かれた学校」であることが大切だと勉強してきました。その本当の意味が今になって分かりました。



その意味を身をもって体験することができたのです。地域には子どもたちの学びの舞台がたくさんあります。そこにはたくさん先生がいます。上林という「大きい学校」の中で、子どもたちは驚きや喜びを感じ、真剣な表情で生き生きと学んでいます。この「大きい学校」には、まだまだ素晴らしい学びの舞台が隠れていると思います。これからも「大きい学校」の中で学び続ける教師でありたいと思います。

振り返って 思うこと



喜多郡
内子中教諭
渡邊 和孝
(平四卒)

平成四年に卒業して、現在三校目の学校に勤務しています。多くの先生方とは違って、確かな記憶が残っていません。しかし、断片的に残っている記憶は、その時その状況の中で、夢中に過ごしてきた証だと信じています。元来、中距離走を愛した私は、苦しみを楽しみに思い違える癖がありました。これまで、多くの人に支えられ、忙しいこと、困難なことなどを何とか人生の肥やしとして過ごすことができました。

初任校は、大風合戦で全国的にも有名な五十崎町立(現内子町)五十崎中学校。五月五日の合戦に向け、今治出身の自分は訳も分からないまま大風や飾り凧づくり、凧踊りの練習など、生徒よりも夢中になって楽しみました。元気な生徒も多かったし、情熱的な先輩や保護者の方々に支えられ、自分でできることを探し、自分で考え、懸命に取り組む若手先輩に負けた

くなくて……。頑張りました。そのせいか、人と人との距離が近くて、濃密な人間関係がそこには感じられました。近隣に知人がいないことなど忘れるぐらい地域にもかわいがっていただきました。中でも、印象的なことが二つあります。まずは二年目の卒業式のことです。多くの生徒の思いとは裏腹に、学校の評判はよくはなりません。しかし卒業式答辞で涙が出るほどうれしいメッセージを生徒会長が後輩たちに送りました。「五十崎によき風よ吹け!」と。五十崎を象徴する風。よき風が吹くと、どんどんあがるので



す。ただ、自分たちの思いだけでは達成することはできなかった学校改善への思いを、こんな風に後輩に託す、弱さをさらけ出せる強さを持った生徒会長。彼は今、同職の仲間として県内の学校で活躍しています。もうひとつは、「環境が人を変える」と言い続け、誰もがお手あげだった雑草を一掃してしまった校長がいました。もちろん、校長だけが草を引き続けたわけではありません。けれども、誰もがサジを投げながら、除草剤を撒いたり草抜きを多く確保したりするような方法を実践する中、生徒の登校時間帯(もちろん、暇さえあれば屋外におられる)に「挨拶のついで」と称し、草引き(草削り)を続けられました。若い教員は最初は渋々、生徒も呼びかけに応じた生徒会本部役員などが後に続きました。ただ、どんな生徒にも真っ直ぐに体当たりされた校長は、知らぬ間にやんちゃ坊主の心も動かしていました。お陰で私の住宅に朝六時頃からトレーニングと称して何人かの生徒がやってきて、怪しげな朝練を行い、一緒に朝食を食べ、他の生徒が登校してくる前まで草削りをがむしゃらにしたのです。記憶は不確かですが、三年生の彼らとは冬の寒さの中で一緒に朝ご

飯を食べた記憶があります。誰からも評価されない草削り、自ら進んで行い、人前では突っ張る彼らと接しながら、いつか本音で話せるかな?と楽しみにしていたことが思い出されます。その中の一人は現任校区域の保護者で、もうすぐ夢が実現する予定です。すごく楽しみです。

二校目はノーベル賞作家の大江健三郎氏の生家がある大瀬中学校でした。平成四年に新築移転が行われた学校に初めての転任をした私は、そのモダンなつくりがびっくりしました。けれども、もつとびっくりしたのが、「地域の学校」という言葉を地でゆく学校であったことです。地域の宝物の子どもたちを、教職員も一緒に成長に関わる仲間として受け入れてくれる、懐の深い大瀬の人達がいました。知る人ぞ知る「大瀬人権まつり」は、大瀬を巣立つ三年生が自作の人権劇を演じざる感動的なイベントです。人は環境によって育てられると聞くけれど、大瀬の地は、多くの環境が多くの人の知恵と協力によって整えられている素敵な地域です。叱っていただいた保護者、飲んだくれた僕を介抱してくれた保護者、本当に自分を見たい、役に立ちたいと強く思った

七年間でした。あと数年、大瀬に通いたかったと今でも思っています。

そして昨年、「木蠟と白壁のまち」内子町立内子中学校へ赴任。総工費十億円の校舎の中、保健体育科教員の私は、「グランドいっぺんできるかな?」と、今年の二月まで思い続けました。旧校舎の解体とグランド改修工事、落ち着かない環境は、伸びようとする子どもたちに少なからず影響を及ぼしたのだらうと思います。今、多くの人たちの努力のおかげで、とつても素敵な時間と空間を楽しむことができています。そして、剣道部との出会い、学生時代から陸上競技をしてきた私は、実は小学校時代に剣道から逃げ出した落伍者でした。しかし、大学受験を機に恩師に思いがけない言葉をいただきました。「剣道はいつでも、いつからでもできる。」と。今、かつて剣道から逃げた自分と向き合いながら、自分と真っ直ぐに向き合い、友と支え合っている生徒たちの中で、共に自己研鑽の日々を送らせて頂いています。

喜多郡内子町平岡甲
795-0303
五二〇一七

聴く楽しさを 共感しながら！



県立
松山聾学校教諭
中矢 温子
(昭五二卒)

♪歌が好き／太鼓が好き／リトミックやダンスも大好き♪／みて・さわって・きく音楽／それは、心の奥まで響いている／魂で心の歌を聴いている／大好きな、大切な自分の音楽／聴覚障害児とともに音楽を楽しむ日々／音楽は耳だけのためにあるのではなかったという再発見と喜び！／そして感動！！／こんな新たな音楽に魅力を感じている／子どもたちのエネルギーをいっばい感じる日々／そして、感謝の日々／響き合える音楽をいっばいにしたい！！

これは、平成十八年四月に、愛媛県立松山聾学校へ赴任して一年目を終えるころ、自然と心に湧き起こった聾者とともに音楽する感動と喜びです。

皆さんは、耳の不自由な人々が音楽を楽しむことって、どんな風に想像されますか。私も、子どもたちとの最初の出会いを体験するまでは、「どんな音楽だろう？」で「できるかしら？」と不安な日々でした。でも、こんな不安はすぐに

吹っ飛んでいきました。そして、音楽の魔力にも似た不思議な力を感じ、今までに味わうことなかった「音の世界」へと思いをめぐらせるようになりました。それは、風の音を心で聴くような、光の響きを心で感じ取るような、自然界に広がる音の世界を「研ぎ澄まされた感覚で感じて聴く」というようなものでした。

では、感動の幾つかを御紹介しましょう。まず最初の出会いは、校歌の歌唱です。想像以上に大きな声で、四拍子のリズムに合わせて自信ありと歌うのです。「これは素晴らしい！歌えるんだ」という驚き。うちわ太鼓のリズムをよく聴きながら生き生きと身体表現するリトミック。また、「かっこう」



の歌のリズム打ちでは、体の中に三拍子が流れていました。本来人間の体の中には、リズムが自然に流れていたのだという再認識でもあります。感動の極め付けは、美しい歌を鑑賞後の「心が込もっている」との感想です。そのときのまるで目が覚めたような驚きと感動は今でも鮮明です。また、リコーダーのような難しい作音楽器も、音声分析画面を見ての練習や根強い練習によって、音の裏返りを自分で聴き分け、息や口の調整をします。これらの日ごろの学習の成果を文化祭で発揮した和太鼓やリコーダーの演奏は、それはそれは見事な出来映えでした。

近年、補聴器や人工内耳の性能も良くなっていますが、残存聴力をふるに活用しながら、耳を使う楽しさや心地よさを味わっています。音を体全体で受け留め、楽しむ音楽を創り上げています。こんな音楽を目の当たりにしたとき、「まさしく、これが音楽なんだ」と改めて気付かされました。

今後も生活の中で楽しむ音楽を目指すために、よりよい音・音楽との出会いを追求し、「私達もできるんだ!!」という自信と喜びを共感できるよう、子ども達とともに歩みたいと思っています。

799-2655 松山市馬木町
一三三二五

会報の送料納付 について

平成二十一年二月号でもお知らせしましたように、会報の個人宛発送は、送料を各自で負担していただくことになっております。

出費多端の折柄恐縮ですが、未納の方は、左記要領で納付方お願い申し上げます。

記

①一年間五〇〇円で、二年間分ずつ収めるようになっていきます。

②二年ごとの更新は、煩さなので、何年間かを、まとめられる方もあります。

納付期限 毎年三月三十日までとし、二年毎に更新する。

送金方法 郵便為替・現金書留・郵便振替で

振替口座番号

送り先 〇一六四〇一七二二七五四
七九〇一八五七七
松山市文京町三

愛媛大学教育学部同窓会

領収書は、振替用紙をもって、かえさせていただきます。

教育学部同窓会
インターネット
開設しています！

メールアドレスは上記

お問い合わせ、会報への寄稿、住所、勤務先変更などの諸連絡にご利用ください。お待ちしております。

dosokai@ed.ehime-u.ac.jp

教育学部同窓会
ホームページ完成！

URLは上記

支部活動、会合、イベント等のスケジュールなど、タイムリーに情報をお知らせします。同窓会員同士の交流を深めるために、できれば、掲示板を設ける準備をしています。

http://www.ed.ehime-u.ac.jp/~dosokai/

生かされて 生きる



西予 城川中教諭
富本 周作
(平十卒)

講師の時代を含め、教員という仕事に就き、早くも十二年目を迎えました。一つ一つの出会い、先輩方の教えが、私にとつての大切な宝物だと感じています。この仕事を何とか続けられていること、続けさせて頂けていること自体が、教員をさせて頂いている私の喜びです。

大学を卒業し、初めて赴任した学校は、八幡浜市立八代中学校でした。大勢の生徒、先生方に囲まれ、右も左もわからず、悪戦苦闘した日々でした。最も心に残っているのは、周りの先生方からかけて頂いた、温かい言葉の数々です。これから教員としてやっていこうとしている未熟な私に、本当に温かく接して頂いたと思います。

「教員やったらな、病氣して、そこに立つとるだけやっただとして、学校には出て来い。子どもら

はお前の事を待つとるんぞ。」時には厳しく、時には優しく、教員とはなんたるかを私にたたき込みうとして頂いた先生方に、本当に感謝しています。

二年目、次に赴任したのは西予市立野村中学校です。そして、教員生活の中で初めて学級担任をさせて頂きました。中学二年生、思春期真っただ中で、いろんな感情と戦いながら日々前進していきこうとする子どもたち。子どもとの関わり大切さや、人間関係の重要性を、身をもって感じさせられた一年間でした。今ふり返つても(当たり前ですが...)学級経営の中で、上手くいったことなど、ほとんどありません。反省しきりの毎日でした。しかし、現在野村町で生活していますが、当時の教え子に会っています。当時の教え子に会うたび、良く声をかけてくれ、また、共に酒を飲んだり、地域の活動に参加したりすることができています。担任をしてから十年経った今、心と心が通い合うことの喜びを改めて感じさせられています。温かい野村の子どもにも感謝です。

三年目、体育代替として、西予市立宇和町小学校にお世話になりました。初めての小学校勤務。し

かも、二、三年生の体育の授業です。中学生との違い。児童に的確に指示を出したり、理解させたりする事の難しさを知りました。中学校で、生徒に指示を出し、動かせていたのは、必ずしも自分のやり方が良かったのではなく、生徒に頼っていた部分が大きかったことにも気付きました。言葉一つ、表情一つ、小学校の先生方のきめ細やかな指導に心から感心させられました。たった一年という短い期間でしたが、自分が受けたシヨックは一番大きかったかもしれません。本当に勉強になる一年間でした。

伊方町立三崎中学校での勤務では、地域、保護者の方の温かさを感じさせられました。全校生徒が五十数名という小規模校ですが、地域、家庭と学校が一体となり、生徒のために行動することで、三崎を離れても一人一人の子どもが活躍できる力強さを身に付けてくれていたような気がします。休みの日にも生徒と一緒に釣りをしたり、日が暮れるまでグラウンドでサッカーをしたり、楽しい思い出もいっぱいあります。人なつっこい子どもたちですが、その子どもたちと私たち教員との橋渡しをして

くださったのは紛れもなく、保護者、地域の方々だったように思います。学校と地域が一体となることの大切さを学ばされた二年間でした。

新規採用として赴任にした大洲市立肱東中学校。生徒指導体制が充実していました。学校の体制に止まらず、PTAと固く結ばれた絆を活用し、「大人」が一丸となって子どもの指導にあたっていました。目から鱗が落ちる思いでした。市内でもそれほど規模の大きな学校ではないですが、生徒一人一人が安心して、伸び伸びと生活する姿が印象的です。

現在の城川中学校には、七年間お世話になっています。生徒、保護者の方、地域の方々にお話になりながら、学校に行くのが楽しみでしようがない毎日を送っています。同じ学校に複数年勤務させて頂くのも、城川中学校が初めてです。そんな中、ここ数年は、自分の勉強不足をひしひしと感じているのも事実です。

動けることだけを大切に突っ走ってきたこの十二年間だったように思います。しかし、ふり返ってみると、教育理論をおろそかにしてきた自分がいることに気付か

されます。しっかりと学び、知り、理論を身に付けた上での実践がこれからの自分に、そして、子どものために必要だと強く感じています。まだまだ未熟な自分ですが、これまでの経験や反省を生かし、研究、学習していくことを大切にしながら、少しでも必要とされる教員になれるよう、日々努力していきたいと考えています。

797-1212 西予市野村町野村
二二一六三二





海外便り

アメリカで娘の入学式を迎えて



岩田 麻美 (平九卒)

四月某日、娘がこアメリカカロサンゼルス日本語補習校にて小学校入学式を迎えました。これから毎週土曜日の午前中、こちらの学園で娘は日本語で日本の文部省認定の教科書を使って授業を受けさせてもらうことになりました。

娘は平日アメリカの現地校に通っています。そこでは既に一年生（こちらでは夏休み明けの九月から一学期が始まる）で当然英語による、いわゆるアメリカ人になるための教育がされています。親である自身は住む場所が例えどこであろうと日本人。土日くらいは子どもにもゆとりさせてやりたいと思いますが、自分の子どもにはアメリカで住んでいても、日本語を身につけ、また日本の文化習慣なども本人の可能な限り学んでほしいという想いから入学させました。

アメリカ在住も今年で七年目になります。日本を離れて、アメリカという異文化の中で生活してはじめて日本の良さ、子どもが生まれて改めて子どもにはどのような育ててほしいか、学んでほしいかを試行錯誤し、また自分が受けてきた学校教育を振り返り、子どもがいま自分の目の前で受けている学校教育と比べて受けています。

私を感じた日本とアメリカとの違いを少しご紹介します。まず安全について。アメリカで暮らしている何事においても危機意識を子どもも大人も持たされます。子どもをできるだけ良い学校区に入れるために居住を変える家庭があります。住む地域の治安の良し悪しが日本に比べると歴然としていて、それが学校内での治安と関係していると言われます。すると子どもを安全な環境で学ばせたいと思えば、校区外でも通わせません。またある日娘が「No More Drug」と書かれた胸章つけて帰宅しました。こんな小さな子どものうちから違法ドラッグ使用はいけないことを教え、もちろん子どもから周囲の大人にそう訴える意図もあるのだからとアメリカなら

ではと理解できませんが、とても衝撃的に感じました。日本のように集団登校、下校もなく、親が送り迎えをします。日本でも時々登下校中に起こった事件が問題視されることありますが、アメリカではさらに危険意識が強く、娘の通っている学校からは送迎時には他人の子どもにはなるべく話しかけないようにとさえ言われています。他にも色々ありますが、私は日本でそういったことを格段意識せずとも学校に通えたことは恵まれていたと思います。

逆にアメリカにおいて子どもたちにとって良い点だと思うこともいくつかあります。娘の通っている小学校は午後二時五十分以降の授業が終わるのですが、その後一時間、任意に週一回の九週間くらいのプログラムに自分で選択して参加することができず。チェス、サイエンス、アート、ミュージッククラスなど子どもが興味を持てるような内容になっています。九週間という区切りがついているので、それ以上続ける必要がないし、もし興味を持ったならばまた同じカテゴリーのクラスを希望すればいいだけです。好奇心旺盛な子どもたちが自分たちの興味を引き出せるいい機会になると思います。こういった子ども向けのプログラムは夏休み、冬休みの間も学校外においても豊富にあ

ります。またこちらはボランティアが教育の場にも盛んに取り入れられています。担任からは保護者ボラン



ティアを要請され、学級内に入り担任のヘルプをします。担任が使う教材づくりを手伝ったり、宿題のチェックをしたり、授業の側で担任の助手のように働きます。私も子どもの授業内での様子を見られる良い機会だと思っています。各学校行事をはじめ、図書館、カフェテリア内で生徒の世話をする

のもボランティアです。親が子どもを学校に任せきりにするのはなく、こういった形で学校に関ることが可能な限りできるのはいいことだと思えます。日本ではよくいじめの問題が言われています。日本ほどこちらではあまり聞かない理由は一概には言えませんが、学校内で子どもたちを見ているのが教師だけでなく、ボランティアで来ている親の効果もあるかもしれません。またアメリカでは宗教も文化も言葉も違う色々な人種が集まって生活しているの、自分とは違う他者を認める必然性が自然に生まれます。

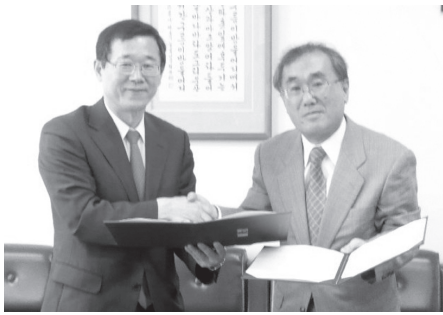
幸か不幸かアメリカにおいて日本の学校にも通うことになった娘。私自身海外に来てはじめて日本人であることを誇りに思ったことがたくさんあります。アメリカで生まれ育つ自分の子どもに日本人とアメリカ人両方の独自性を求めることはできませんが、どちらに限らず、他の文化を認め受け入れる柔軟性を持ち、他者に接することができる真の国際人として育ってほしいと願う今日この頃です。

20820 ANZA AVE.#328
TORRANCE, CA 90503 USA

学部最近のニュース

教育学部が韓国順天郷天郷大学と 学術交流協定を締結

平成二十一年五月十三日(水)、教育学部と韓国順天郷天郷大学人文科学部との学術交流に関する協定書の締結式が順天郷天郷大学にて行われ、壽卓三教育学部長と順天郷天郷大学人文科学部の金基承学長との間で、サインが交わされました。



順天郷天郷大学・金人文科学学長と握手を交わす壽教育学部長

順天郷天郷大学 (Soon Chun Hyang University) は、ソウルから南に韓国新幹線で約一時間の場所にある忠清南道牙山市に一九七八年に設立された私立大学です。設立時は医学系の単科大学でしたが、

現在は、総合大学に発展し、約一万名の学生が在籍しており、人文学部教育学科には約三百六十名の学生が在籍しています。

今回の締結式に合わせて、順天郷天郷大学の留学生受け入れ関連の諸施設の参観も行いました。国際交流センターや留学生用の寮などを参観しましたが、そのどれもが充実した施設であり、大学として留学生の受け入れを大学生残り策として戦略的に取り組んでいる実情を目のあたりにしました。

なお、今回の協定と共に、授業料相互不徴収での留学も覚書として締結されました。愛媛大学教育学部の学生が、順天郷天郷大学に留学する場合、授業料納付が免除されるほか、寮費も免除されるプログラムが用意されることになりました。今後、韓国で韓国語と英語を学ぶ機会として、本協定が活かされることとなります。また、順天郷天郷大学から、二週間程度の短期プログラムとして、日本語と日本文化を学ぶ機会を持っていかとの打診があり、今後は国際連携推進機構とも協力しつつ、受け入れに向けて活動していく予定です。



協定後の記念写真

フィリピン大学教育学部主催 日本教育見学会が来学



意見交換の様子

平成二十一年四月二十一日(火)、フィリピン大学教育学部主催の日本教育見学会が来学しました。今回は、フィリピン大学とサント・

今治市教育委員会と 連携協力

教育学部はこれまで、愛媛県教育委員会、松山市教育委員会、今治市教育委員会、伊予市教育委員会、松前町教育委員会、東温市教育委員会とそれぞれ連携協力の覚書を交わし、その活動を通して、教育研究、教員研修、教員養成について多くの成果を挙げてきました。

平成二十一年四月十七日(金)、教育学部は、高橋実樹教育長を迎

えて今治市教育委員会との平成二十一年度の連携協力事業の調印を行いました。

今治市教育委員会とは、平成十四年の覚書の調印以来、継続的に共同研究を行い、『研究報告書』(愛媛大学教育学部・今治市教育研究所)の形でその成果をまとめています。今年度は、昨年度に引き続き、「確かな学びを保障するカリキュラムの開発と授業の創造」というテーマで研究を推進することとしました。その趣旨は、「教育現場の諸問題の解決のために、理論と実践の一体化による研究を推進するとともに、教師の創意工夫を生かした授業を創造し、児童生徒に多様な確かな学力を身につけさせる」というものです。教育現場の具体に即した継続的な研究の成果が期待されます。



握手を交わす壽教育学部長と今治市教育委員会高橋教育長

文芸



川柳

日野 厚生

(昭三三卒)

窓開けて朝が始まる深呼吸
 言にくい事もとぼけて言ってみる
 もう一つ体がほしい定年後
 ごめんねとつままで殺す無農薬
 明日のため寝床へ急ぐ午前二時
 心配の小言はいつも温かい
 忍の字を書いているみ込む夫婦仲
 泣き笑いしながら歩む老いの坂
 無理をせず楽しみながら夢を追う
 輝いていた人生自分流
 楽しんで楽しんでから行くあの世
 人はみな天狗の鼻を持っている
 若い芽が間引かれていく雇い止め
 消費税上げて助けるグアム移転
 いいなりの政治にほしい変化球

— * — * —

また全没。第60回エヒメ春の川柳大会(愛媛文教会館四月十九日)で二、三句は採ってもらえるのではと思いつながら参加したが、一句も採ってもらえなかった。

定年退職後、高齢者大学の自主学習で囲碁と川柳の講座に参加し、囲碁は途中で退会したが、塩見草映先生の川柳講座は、毎月一回続けて参加している。吉田の川柳会にも月一回参加しているが、腕の方はなかなか上らず、今日の川柳大会でも、七つの課題に投句したが、各選者の目にとまらなく、残念な思いと悔しさで、表彰式までは残らず、披講が終るとすぐ会場をあとにして、民謡の練習を大声でしながら、高速道路をつつ走って帰って来た。明るいうちに帰れたので、夏野菜の苗を植える準備が少し出来た。苗にすまなく思っていた所であった。

釣り、囲碁など、あれもこれもと始めた趣味も、今残っているのは川柳、民謡、ヨーガ、無農薬での野菜作りである。昨年から八十歳になってから始めようと思っていた習字を、友人の勧めで始め、これにも時間を取られるようになり、泥縄式で清書をして出している。さらに、退職後すぐに、高齢者が安心して暮らせる世の中づく

りをしようと結成された年金者組合にも参加して、署名活動や請願運動、学習会や楽しみみの会などにも参加している。

時間が足らんとぼやくと、どれもこれもやらんと、趣味一つにしぼつたらどうかと、家内からの小言がくる。でもこれらの趣味は、続けてやって行きたいし、川柳は特に夜中になっても頑張れるので続けていきたいと思っている。

自己満足の川柳から、わかってもらえる川柳をめざし、一年に一、二句は色紙に残しておけるものをめざしたいと思っている。



799-3730

宇和島市吉田町立間

二一—一三二

絵手紙

自分流でいいかも

田中 勝子

(昭五〇卒)

「あんたのは、絵手紙じゃない。」
 厳しい身内からの言葉である。これは、展覧会等でよく見かける、あのほのほとした作品と比べて言っているのである。確かに違う。私ののは、かわいげがない。

私は、絵手紙を「葉書に絵をかき、短い言葉を添えたもの」と軽く解釈して、好き勝手にかいている。花づくりが趣味で、育てた花を、できるだけ自然に美しく表現したいと考えている。従って、



791-3102

伊予郡松前町北黒田

七三八

言葉より絵に力が入る。

私の絵手紙は、病弱な長姉の元に届くことが多い。姉は、楽しんで、全葉書をファイリングしている。手元には残らない自分の絵手紙に再会できるのは、うれしい。

さて、偶然に私の絵手紙を見てくださった美術の先生から、お言葉をいただいた。「最近の絵手紙は、パターン化されて、どれも同じに見える。あなたのは、自分流だ。これを貫きなさい。」ありがたい。これを励みにがんばりたい。

俳句

宇和島と「洪柿」

佐々木皓一
(昭三〇卒)

春暁や城下にやさし遠汽笛
 楠落葉殿に殉ぜし墓碑四基
 武左エ門一揆の道や下萌ゆる
 春雨や長英隠れ家閉じしま、
 母子草おイネゆかりの宇和の里
 唯純情唯自然とあり城雲忌
 産土に「雪待つ」句碑や秋深む
 吾子なしと詠まれし句碑や寺の秋
 草餅や母を恋はれし双師の句
 機銃掃射受けし校庭敗戦忌
 葉桜や不戦の誓ひ戦没碑
 城師双師山冬師の故郷山眠る

— * — * —

俳誌「洪柿」の創始者松根東洋
 城は中学四年のとき松山にて夏日
 漱石の教えをうけ俳句の道にふみ
 こまれました。

能もなき洪柿共や門の内 漱石
 能もなき洪柿共が誠かな 東洋城
 このやりとりから「洪柿」とい
 う題僉が決まり現在千百四〇号の
 発刊となっています。城師は芭蕉
 の心に帰えることを提唱され、「剛
 さが中に標渺とせん事にや。所詮
 は人の情のやさしさ、美しさの溢
 れ流れんまでぞ。……人の世を情

に生きん願いのみ……。」この俳
 句観の教えを求め城師のつくられ
 た「滑床会」は今も宇和島に息づ
 いています。宇和島出身の洪柿主
 宰東洋城（初代）山冬子（三代）
 双葉子（四代）の教えをかみしめ、
 折にふれてその句碑をめぐり、ま
 た案内する楽しみを味つていま
 す。ちなみに現在の主宰渡部抱朴
 子先生は西条市に住まれ指導を
 いただいています。

(☎) 798-0043
 宇和島市宇和津町
 三三三一二二

短歌



山上 蒼
 (昭十九愛師)

初期
 湿り田に溝切りゆけば流れ出す水
 はたちまち春日に光る

下刈の休みにあぐらかく膝に尺と
 り虫が腹あげて這ふ
 コスモスを初めて見たる感激を
 九十の父は今日もまたいふ
 枝打をすれば川辺の葉の花の輝き
 林の奥まで届く

現在
 仕事より帰りしならん闇深き丘に
 灯りの一つ点りぬ
 畑仕事せんとひと先づ昼寝して力
 畜ふ老いたるわれは
 農薬にとびたつ虫を追ひ求め蜻蛉
 は飛びぬ老をめぐりて
 夕光につるうめもどきの実の映え
 て落葉をしたる川辺明るし
 入社日の前日内定取消さる列島桜
 が満つるといふに
 わが作りわが食ふための食なれば
 妥協重ねて評価は甘し(妻の死後)

— * — * —

退職後、ガリ切要員として短歌
 会員となり、もう二十八年となり
 ます。日暮れて道遠く、朱熹の詩
 をもじれば「老年易逝学難成」
 といったところでしょうか。

父も教えていただいた林伝次先
 生の御墓を妻（愛師二四卒）と共
 に退職後、福井県に訪ねました。
 「行くに徑によらず」と説かれた
 先生らしく位階勲等もないつま
 しい御墓でした。本当に大切にし
 たい言葉でした。そんな詩作であ
 りたいと思うのですが……

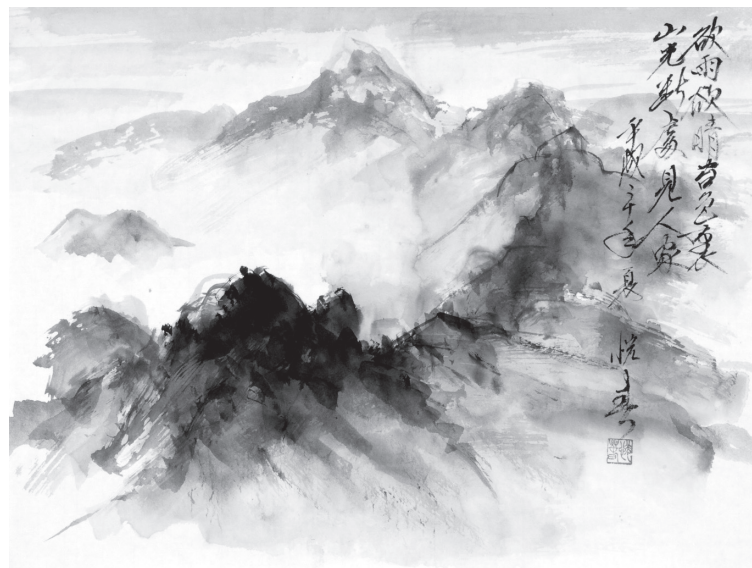
(☎) 799-0703
 四国中央市土居町
 藤原一四

水墨画

墨色に遊ぶ

三好 靖子
(昭三三卒)

和紙にドーサ液を引いて描くと
 滲みが押さえられ墨が流れたり
 溜ったりする。細かい線描は難し
 くなるが、偶然にできる美しい墨
 色に出会える楽しみがある。
 雲海に見る山は朝日を浴びて紙



のように薄く感じる。青墨で筆を
 走らせ平らに広がる印象的な空間
 を余白で表現してみた。
 筆が走ると体調不良などいつの
 まにか消えてしまふ。
 濃墨で打つ点の一つ一つが画面
 に生氣を生む一瞬がある。そんな
 達人の運筆を見習い「気韻生動」
 を求めて墨色を楽しんでいきたく
 い。

(☎) 790-0911
 松山市桑原
 二一五二二

漢詩



伊予長浜八景(四)



豊嶋 睦 (昭二師本)

7 出石寺山の雲海

小学校時代の思い出の一つに出石寺への遠足がある。わい／＼燥ぎながらの軽やかな足どりも登り口まで。出石寺へは、その登り口から中腹までの坂道が最も厳しい。息急ぎ切つて急な坂を突破し、視界が開けはじめたところが中休みの場所。岩場に腰をおろして休むとそよ吹く風が汗した膚に心地よい。再び登りはじめてから暫くすると原生林が眼前にひろがってくる。もう山頂は近い。そして、巨大な神木杉が見えてくると、そこが出石寺の山門。靈氣にふれるというか神々しさを覚えて疲れすら忘れる。

出石寺の開創は養老二年(七十八年)、道教法師によると伝

えられているが、後、大同二年(八〇七年)、空海が入山され、熊野権現を勧請して山号を金山とし、入唐伝来の護摩供養を修法されたといわれている。

なお、護摩堂の正面軒下に銅鐘が釣り下げられているが、これは慶長三年(一五九八年)、大洲城主であった藤堂高虎が、朝鮮の役の後、奉納したと伝えられている。

さて、こゝ、金山出石寺は、瀬戸内海国立公園の一角。その山頂は、長浜・大洲・八幡浜の分水嶺をなす風光明媚な禅寂の境。四顧すれば、眼前に瀬戸の海が広がり、後背には石鎚の峰巒が眺められる。殊に、夏・秋の早暁、原生林の上に漂う黄金の雲海は、仙人の住み家かと紛うばかり。実に、荘厳な神秘の世界が広がっている。

出石寺山雲海

- 老杉林立絶塵煙
出石寺山天外連
四顧峰巒禅寂境
莊嚴雲海住神仙

【平起・先韻】

老杉林立して 塵煙絶え
出石寺山 天外に連なる
四顧すれば 峰巒 禅寂の境
莊嚴なり 雲海 神仙住むや

○塵煙―煙のように立ちのぼるちり。

○峰巒―山々。

○禅寂―静かに思慮瞑想にふける。

○神仙―人間界からぬけ出した世界に遊ぶ者。



原生林の上に漂う黄金の雲海

8 白滝公園秋景

世に名勝といわれる滝は数限りなくある。例をあげれば、和歌山の、落下の高さ日本一の「那智の滝」もその一つ。古来、行場として神聖視され、高浜虚子も、八神にませば まこと美わし那智の滝と詠んでいる。山形の、最上川峡谷にかゝる「白糸の滝」も天下の名瀑。『義経記』に、

△最上川 瀬々の岩波 堰き止めよ 寄らでぞ通る しらいとのたき▽とある。また、日光中禅寺湖

から流れ出る大尻川の「華嚴の滝」も知らない人としてない。高さは九十七メートル幅は七メートルだが、この滝も、川端芳舎の、八白樺の 霧にひびける 華嚴かな▽など、著名人の多くが句や歌を詠んでいる。

これらに比し、わが町の「白滝」は、その規模や、小さいものの、「白銀の滝」・「七色の瀑布」とも呼ばれ、詩人・野口雨情が詠んだ「白滝小唄」に、△春の白滝 桜の眺め 松の蔭から 花が咲く …… 秋の白滝 木と木のみみじ 山は錦の 暮をはる▽とて絶賛した名滝である。

さて、かつての「白滝」には、その入口に水車小屋があつて蕎麦など粉に碾いでいた。その水車の回る音が聞こえてくると滝はもうすぐそこ。新緑の春もさりながら、圧巻は紅葉する秋。その美しさは、さながら天女の白銀の舞でも見るかのよう。どんな画人をして、その自然のキャンパスに一筆すら加えることは敵わないであろうと思われろほど。



白銀の舞・白滝公園

白滝公園秋景

- 来上溪辺聴水車
忽看秋錦艶春花
真佳瀑布白銀舞
華麗幽玄何可加

【仄起・麻韻】

来り上る溪辺 水車を聴かば
忽ち看る秋錦 春花より艶しきを
真に佳し 瀑布 白銀の舞
華麗 幽玄 何をか加う可けん

○溪辺―谷川のほとり。

○秋錦―こゝでは紅葉をいう。

○瀑布―滝のこと。

○幽玄―おもきが深い、奥深く微妙なこと。

○何可加―もうこの上に加える物は何もない―ということ。

738-0025 広島県廿日市市平良 (一―二―一九)

愛大教育学部ゆかりの 教育碑八カ所巡り

今、愛大教育学部ゆかりの教育碑を訪ねようとして調べてみると、以下の八カ所があがってきた。

愛媛教育の原点に触れようとするならばこの八カ所巡りをし、と思い、現学部四回生と共に先ず、☆から☆までの四カ所を訪れた。

☆の愛媛大学教育学部中庭にある「師道鑽仰碑」と常に学部の変遷を静かに見つめる「石井素氏碑」を訪れる。そこで、八カ所巡り希望の学生達に、碑ができた由来や碑文の解説、何故、石井氏の像がそこにあるのか、本同窓会との関わり、歴史的背景を語った。(内容は同窓会報一〇四、一〇五号を参照されたい)

☆師道鑽仰碑 (同窓会)
石井素氏碑 (同窓会)

松山市文京町愛媛大学内



次に☆の松山市祝谷一丁目エスポワール愛媛文教会館玄関横にある「指導鑽仰碑」を訪ねる。そこでは、戦後、愛媛教育の礎を築いた先達の志の証でもある会館建設時の様子と何故「鑽仰碑」がそこにあるのかを話した。

☆師道鑽仰碑 (愛媛県教育会)

松山市道後文教会館内



続いて☆に向け文教会館を出発、東温市樋ノ口にある「指導鑽仰碑」・山路先生歌碑・林先生碑を訪ねる。

松山方面より横河原橋手前を左折県道山之内線を千メートルほど入ると、道路脇に三つの碑名が入った石柱道標に出会う。指示された通り山道を四百メートル登った正面に、静かな佇まいをした「師道鑽仰碑」が目飛び込んでくる。期せずして学生さんから驚きの声が上がると、「身が引き締まる感じがする。」と。特に、林先生の碑文「わが教え子 わがすべて」に、

学生全員深く感銘を受けた様子で、しばらく碑文の前に佇んでいた。

山路一遊先生歌碑

☆林傳次先生碑 (師道鑽仰会)

師道鑽仰碑

東温市樋ノ口



熱い思いを抱きつつ、樋ノ口の聖地を辞す。夕暮れ近く、松山市堀之内北「札の辻」近く、松山若草合同庁舎の南西隅にある「愛媛教育草創之地碑」を訪ねる。

この地は、愛媛師範学校跡地であり、まさしく愛媛教育の原点、草創の地である。調査してきた資料を基に近くを感慨深く散策した。

夕色迫り、以下に示す四カ所については後日訪れることを約束し、この地で解散をした。後日訪問予定の教育碑を写真入りでここに紹介しておく。

☆愛媛教育草創之地碑 (石井南放)

松山市本町三の四

〈愛媛若草合同庁舎南西隅〉



☆愛媛県女子師範学校跡碑 (同窓生)
松山市須賀町三津
〈松山西警察署止門脇〉



☆三浦謙次郎先生碑

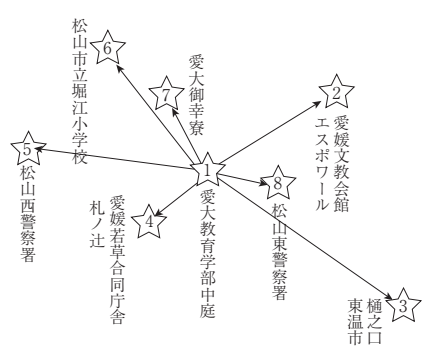
松山市福角町甲一四〇九一二
〈松山市立堀江小学校内〉



☆愛媛青年教育発祥地碑 (同窓会・田中周三郎)
松山市御幸町二
〈愛大御幸寮門脇〉



☆愛媛農学 発祥地碑 (農学部同窓会)
松山市勝山町三の十三
〈松山東警察署北西隅〉



祝・叙勲

(平成二十二年四月二十九日)

☆瑞宝双光章

教育功労 白石 純士 殿
今治市南日吉町二一三一五
昭三十五年卒

教育功労 武市 徹 殿
松山市東野五一九三〇
昭三十六年卒

教育功労 越智 泰久 殿
今治市玉川町小鴨部甲二二六一四
昭三十七年卒

教育功労 中村 哲也 殿
南宇和郡愛南町柏六〇五
昭三十七年卒

教育功労 村上 伸二 殿
松山市高岡町二〇四一四
昭三十七年卒

教育功労 村上 伸二 殿
松山市高岡町二〇四一四
昭三十七年卒



先輩を偲ぶ

独学で教師を目指した

森岡敦栄先生百九年の足跡(十)



上甲 修
(昭二九卒)

山路一遊校長の薫陶を得る

愛媛大学教育学部のキャンパスに山路一遊先生領徳碑「師道鑽仰之碑」がある。山路先生は愛媛師範学校の歴代校長の中でも最も著名なお一人で、森岡先生は山路先生の最後の教え子でもあったのである。

森岡先生は山路先生との思い出を次のように語っておられる。

「私が師範に入学して一番嬉しかった事は、わが国でも屈指の大教育家、山路一遊先生の薫陶を直接受けることが出来たことです。

先生は教育の重点を徳育に置かれ人格の完成に力を入れられているように思いました。

学科は学校管理法でしたが、先



生の講義のところでどこに教育に対する信念としての教育観が滲み出ておりました。先生は、私たち生徒の品性を育てる一方法として一日の行動を反省させ、かつ精神を落ち着かせるために、毎日毛筆で日記を野紙二枚に書かされたのです。これには相当時間を要するので、ぶつぶつ言う友もいました。私もその一人であったかも知れません。しかし後で考えてみると、人格形成の上で非常に役に立ったように思います。

先生が愛媛の教育界に残された業績は計り知れないものがありました。山路先生に接することにより、独学で干からびた私の心に潤いが出来たようにさえ感じました。」

教育実習として卒業

第三学期を迎え付属小学校で教育実習が始まった。森岡青年は二年生と三年生の複式学級を持つことになった。その学級の担任の先生は付属の主席訓導(教頭)であった関係で忙しく、それで三学期の授業はほとんど教生達が担当した。一つの学級に二つの学年の児童がいるので、常に二通りの指導案を準備してのぞんだ。それで教生の期間中はとても忙しかった、という記憶が残っているそうです。

その頃、付属小学校ではアメリカの教育家パーカストがドルトン市で始めた「ドルトンプラン」という教育方法が研究されていた。しかし極端な主知主義の教育なので結局実らなかったそうです。

大正十二年三月、森岡先生はトップの成績で師範を卒業した。

山路一遊先生の略歴

安政五年 松山藩士の山路一審、綾の長男として誕生

元治元年 藩校明教館で漢字を学ぶ

明治三年 松山藩立洋典科に入学し、英語・洋算を原書で学ぶ

明治八年 大阪英語学校に入学

明治十七年四月五日 東京師範学校中教師範学科(東京高等師範の前身)を首席で卒業

明治十七年四月九日 文部省勤務

明治二十二年十月 香川県尋常師範学校長(十二年間)、滋賀県師範学校長(十一年間)歴任

大正二年 愛媛県師範学校長に就任

大正十二年三月 同校退任

昭和七年八月十九日 逝去七十五歳



今、教育に思うこと

少子化と教育諸問題に思う

小野植元幸
(昭二九卒)

昨年末から、未曾有の世界経済危機がアメリカの経済破綻から日本に波及。安定していた大手の企

業が次々に従業員解雇。その影響で中小企業も次々倒産。長年勤めた人々も、いつリストラされるかわからない不安定・不透明社会。格差社会を生みだし、採用内定者までとりに消される世の中となり、これからの日本の将来はどうなるのか、次代を背負う若者の指標が失われようとしている。

教育界においても二転三転し、物が豊かでも心は荒み、連日のように予期せぬ事故、事件が多発。「安全・安心」の日本が崩壊、平和であるといえながら、今こそ国民総反省し、国民総意でこの危機を建て直す時期である。

現代の子どもたちは、過当競争に追われ、早くから進学関係に力点をおいたつけが、気力・体力・運動能力・能力等ひ弱くなっている感じがしている。視野の狭い競争に視点をおき、マニアルがなければ行動できない指示待ち子どもが増加し、挑戦する心が消失しつつあるように思える。視野の狭い競争に視点をおき、わが子中心の近視眼的に学校や教師に要求し、圧力をかけ、躰まで要求する保護者が増加。教師は、多忙とストレスに絶えられず休職が年々増加しているように思う。

教員の資質向上の一環として、教員免許更新制導入を二〇〇九年よりスタート。免許有効期間十年。他の職域では、それぞれの職業の研修を深めるために時代に対応する人間力を育てるために実施しているの、自己のため、教師としての自己研修のためと受け止める

ことが大切である。わが校下では、教育の効率化、教師自身の反省と資質向上のために「学校評価」を、アンケートとして保護者に求め、地域に根ざした資料として、学校教育に理解と関心を持つよい機会である。親は日々、子どもと絆を深め学校生活に視点をあてて、情報蒐集に努めることが大切である。

次に愛媛教育の課題は、学校統合問題であり、少子化で年々児童生徒の減少のため、教員採用に影響する学生・管理職登用の減少。ここ十年間に、県下の市町は推進する計画である。統合の利点として、一、複式学級の解消。二、中学では、免許のない科目指導の解消。三、県市町財政の効力化。四、校舎の老朽化・耐震度強化。五、ある程度の集団による切磋琢磨。限界集落の増加、過疎化・晩婚化・結婚しない症候群の増加等、地域の核としての学校がなくなることへのびないが、少子化が原因のためやむを得ないように思う。

現場の先生方には、保護者や地域より要求度が高まるが、全体の奉仕者として、研鑽し児童生徒、地域に還元する教育を願う。教員の世界の常識は非常識と言われるように、幅広い知見とプロとしての自覚を持ち、社会情勢に目を向け地域の師表となることを期待する。

同期会

愛師二十二年卒 在京同期会



水野 允陽
(昭二二卒)

平成二十年十二月十四日(木)、上野「鮒忠」東上野で、例年のように、谷口敬、武田敏文、井原茂幸、高橋立身、山之内登、藤本正義、水野允陽に加えて、加藤幹夫人(愛師女子23年卒)、玉田泰三郎夫人(東京一師女子24年卒)の九名が揃いました。

谷口敬氏の発声によって開会のことばにはじまり、十月二十二日松山・伊予鉄会館の同期会の様子の報告があり、ふる里の友人たちの楽しいひと時を話し合いました。

ついで井原茂幸氏の音頭によって乾杯ということでしたが、昨年より人数が多くなったので、ふる郷の同期会にまけないように元気な声で乾杯ということで、張りきった声の楽しい乾杯ではじめ



ることが出来ました。

在京の友人たちについては、返って来た返事のハガキの廻し読みをしました。近藤功氏の病状の話が出たり、お互い色々心配をしました。また、早く元気になってもらいたいと願いながら、自分たちが、元気で集ってることが出来た事を幸せだと感謝をする話が続きました。我々も八十二、三の年をとっているのです、話の内容は昨年のように燃えた程ではありませんが、お互い元気で会おうよと、それぞれの意気には感じました。私は、年を取ればとる程にそれぞれが考えて自分でも、または地域の為に何か役に立つことなど生活に工夫をつけて、考える。動く。...等々。活力のある生活に生きて行くべきではないかと考えております。在京の同期生の皆さんが益々健康で豊かに過ごして行くことを念じながら、来年の同期会が盛んになるようにと願っております。

話ははずんで、予定していましたが二時間半は、またたく間に過ぎ會員で写真撮影のあと、来年も



十二月十一日(金)に再会を申し合わせ午後二時散会をしました。

時間が過ぎましたが、九名全員が近くのコーヒー店に立寄り、更につづく話に花が咲き、場所が変わると話題も変わるものかなあと、不思議にも思いました。友だちはいつ集っても良いものだと思余韻を楽しみながら別れを惜しみました。来年は一人でも多くの友だちが集ってくれることを願いながら家路につきましました。

☎ 175-0092 東京都板橋区赤塚
五二七二〇〇

昭王会 関東支部の集い

伊藤 始
(昭二〇卒)

平成十九年五月二十日久しぶりの快晴。東京都品川区中小企業センターのケヤキが空いっぱい若葉を広げて私たちを歓迎してくれました。

昭王会関東支部の会も今年で二十六回目。後に紹介した九名で、和やかに楽しいひとときを持つことができた。

宴会に先だって池川啓司君の、「山歩きに魅せられて」という話があった。日本の名山はもろろん、カナダ、ニュージーランドなど海外の山にも数多く登り、かつ親しんだ話は味わい深く、また私たちの視野を広げてくれた。

特に、「登山に近道はない」「迷ったら上に登れ、必ず道がある」、「下りに注意せよ」など、登山が人生そのものであることを教えてくれた。「徒然草」の「高名の木のぼり」や今西錦司の「山の随筆」を思いだした。

池川君の、あたたかい人柄のにじみで話だった。

今年、菊池巧君の「世界一周の旅から」だ。彼は、そのクルーズに二度も挑戦している。どんな

出合いとドラマがあったか、今から楽しみである。

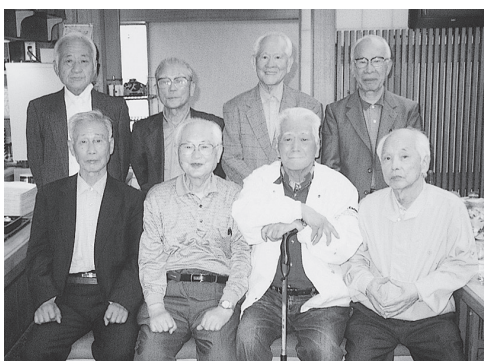
なお、会に先だつてのミニ講演会は、06年の第一回は、兼頭吉市君の「老人介護の現状と課題」、07年は「日本紀行文学会の講師をつとめて」で、池川君は三度目である。いずれも味わいのある有意義な話である。

さて、永井君、菊池君、二宮君から同期生の消息が報告された後懇親会に移った。健康状態、今とりくんでいる仕事や趣味など、スピーチは切れ目なく続いた。話の楽しさとともに、明日への元氣をもらったひと時だった。

〈出席者〉

「愛媛」池川啓司・菊池巧・二宮一

「関東」兼頭吉市・神野正光・首藤敏・永井恒男・深見清春・伊藤始





県外支部便り

愛大校友会首都圏支部 交流会に出席して



武田 敏文
(昭二三卒)

愛大教育学部同窓会関東支部と若い卒業生とのパイプを太くした
いと、平成二十一年五月三十日(土)
JR田町駅近くのキャンパスイノ
ベーションセンター「愛媛大学サテ
ライトオフィス東京」へ行き、「愛
媛大学校友会首都圏支部第一回新
社会人との交流会 全員集合in東
京」に出席しました。
誘い合いもしなかったのに、教
育学部同窓会関東支部長の兼頭吉
市先生が来て下さって、びっくり
したり感謝したり。

会場では世話役の方の心遣いで
若い方たちと年配の方たちが二つ
に分かれて話し合いが始まりまし
た。
やがて若い人たちと合同の会に
なりおおぜいの参加者となりました。
た。

玉春日の断髪式に出席されてい
た元愛媛大学学長で愛媛大学顧
問・愛媛大学名誉教授の小松正幸

先生が駆けつけて下さり、激励の
御挨拶をいただきました。御一緒
されていた教育学部事務課長の高
橋宣昭さんともお会いし、会は盛
り上がりしました。

ところが受付で教えて下さって
いた、教育学部平成十一年卒の後
藤健太郎さん(株式会社IHI
エアロスペース勤務)と、同平成
十七年卒の山崎ゆう紀さん(イン
クリメントP株式会社勤務)は、
なかなか見つかりませんでした。
やっとお会いでき、今後お若い
方々にも同窓会報を配送下さるよ
うお願いすることができました。

この機会に平成二十年五月十一
日(日)の臨時総会の記録の主なこと
を追記します。

午前十時より
・愛媛大学理学部長 挨拶
・講演

◇媛ダイヤの合成
愛媛大学地球深部ダイナミ
クス研究センター
井上徹、入船徹男

◇可溶性前駆体を利用した低分
子有機半導体の高効率合成と
応用
理工学研究科
准教授 山田容子

午後一時より
・臨時総会
事業計画「新社会人と若手卒業
生の集い」開催他
・特別講演
◇靖国問題の案外見落とされて
いる側面
元法文学部教授(東京理科
大教授) 三土修平

◇高齢者の車の問題
工学部 卒
溝端光雄
(東京都老人総合研究副部
長他)

これから愛媛大学教育学部同窓
会関東支部より一人でも多く出席
して下さいよう倍増の呼び掛けを
したいと思います。

331-0063
埼玉県さいたま市西区
プラザ八一四

平成二十一年度 愛大「オープンセミナー in東京」に参加して



森 孝枝
(昭三八卒)

「愛媛大学オープンセミナーin
東京」というものが開かれている
のを知ったのは昨年の秋、教育学
部の佐藤栄作先生の講演が初めて
であった。愛媛県人会、松山愛郷

会、松山北高同窓会、関東愛媛教
育会に参加し、愛媛、母校を愛す
ことに於ては人後に落ちない。
と想っていた私は、もっと早く
知っていたらと残念であった。私
のように知らない方がまだまだい
らっしゃるのではないかと思う。

今回は六回目、六学部の最後で
医学部であった。三十五年余の歴
史を経て、素晴らしい学部になって
いることが研究科長 大西丘倫先
生の「医学系研究科現状報告と展
望」や病院長 横山雅好先生の「附
属病院現状報告と展望」を伺って
よく理解出来た。特に病院は、利
用、経営状況においても全国的に
観ても二位とよい成績とのことだ
である。

ご講演はプロテオ医学医学研究
センター、加齢制御ゲノム部門、
大学院医学系研究科、生命多様性
医学講座、加齢制御内科学の三木
哲郎先生による「愛媛発の抗加齢
医学研究」というお話であった。
参加者の顔ぶれを見ると、私を含
め高齢者が多く、ただ寿命だけを
延長させるのではなく、心身共に
元気で長生きしたい、のは誰もが
願う、知りたいテーマであった。
抗加齢センターのドックに入って
調べていただくためだけにでも、
松山へ帰りたい、と思った。

三木先生は「ヒトゲノムの構造
について」が御専門で、この遺伝
子診断をするような病氣

に罹るかも予測出来るそうだ。特
に、「高血圧を起す上で重要な
役割をはたす原因遺伝子の大半
を見つけた」ことは、〇四年
十月二十三日付の日経新聞夕刊
トップ記事として報じられてい
る。特定の病気にかかわる遺伝子
を一気にこれほど見つけたのは世
界でも珍しいという。先生は全
国のみならず世界に「ゲノム研究
拠点の形成事業」を広げていらっ
しゃる。六十五歳以上の人口比が
二二・五%という現在、当日のテー
マ「抗加齢医学の研究」は増々求
められるであろう。

後で開かれた情報交換会では
「老人科に行く必要があれば大学
病院紹介出来ますよ。」と心強い
お言葉を聞くことが出来た。

各学部の多くの卒業生とも話を
して、東京で同窓生が広く活躍し
ていらっしゃることを知ることが出
来た。校友会の一員として今後、
私に出来ることがあれば協力した
い、と強く思った。

当日の教育学部卒業生で出席さ
れたのは次の方々である。
兼頭吉市(昭二〇年卒)、武田敏
文(昭二二年卒)、松影訓子(昭
三一年卒)、渡辺多恵子(昭和
二八年卒)、成見由紀子(平成六
年卒)

150-0001 東京都渋谷区神宮前
五二一七

学部トピックス

「愛媛大学教育学部サポーター制度」導入による学生支援活動が始動しました

平成二十一年五月二十八日(休)愛媛大学教育学部サポーター制度による「魅力的な話し方講座」が、教育学部大講義室で開催されました。今、学校現場、企業現場から、若者のコミュニケーション不足を危惧する声が高まってきています。

まさに、「魅力的な授業の実践」や「児童・生徒、保護者、組織の同僚、地域社会の人々とのコミュニケーションを図る力」が、ますます重要な課題になってきています。

愛媛大学教育学部では、教員のみならず企業や公務員等を目指す学生に積極的に働きかけ、学生が卒業後、組織や地域の中核、即戦力として活躍することができるように、コミュニケーション能力やプレゼンテーションの能力を向上していこうとの



ねらいでこの支援活動が始動しました。

そこで、教育学部では、「話術のプロ」、「組織のリーダー」として活躍されている本学部同窓生の方々をお招きし、**相手の心を惹きつける話し方を学び豊かな表現力を身につけるための「魅力的な話し方講座」**を開設しました。

その第一回目として、平成二十一年五月二十八日(休)十二時五十分より、教育学部大講義室におきまして、平成六年本学部卒業生で、今、東京を中心にして大活躍されている若手落語家のホープ、真打 古今亭菊志ん師匠をお招きして、話し方の極意を伝授して頂きました。

古今亭菊志ん師匠の講座内容概要

まず、師匠は広島県出身ですが、愛大に入学して、落研サークルにはいるまでの逸話を面白おかしく語りました。

師匠が会場の学生さんに、「今までの生の落語を聞いた人」との質問をしましたが、参加学生全員「なし」との回答だったが、ここで大変印象的な場面がありました。正面最前列の席に着席していた耳にハンデのある一回生女性がしっかりとした声で「私は手話落語を聞いていて大変落語に興味があります。」と。師匠は感動の表情で色々と応答していました。もう一つ驚いたのは、会場に二人の手話通訳者が付いていたと言ふことです。

落語を口演するに当たり、落語についての約束事を手拭い、扇子を見事に使い、手拭いが手紙になり、扇子が刀となり、船の櫓となり、箸になり、煙草のキセルにと早変わりする見事な小道具の使い方は会場を見事に引き込んでいきました。やはり、何事も、初めて経験をする人へは、

「説明をいかに具体で示すか」のよさ、必要性を話のプロらしく身振り手振りで学生をひきつけ、見事でした。

続いて、噺、喋り、語り、会話、その情景描写表現等の神髄が具体で示せる、古典落語の一つ「子褒め」を口演されました。まさに真打ち、会場を拍手喝采、笑いの渦に引き込んでいきました。

口演が終わわり、今の落語を聴いての質問タイムに入りました。

先ず、師匠から学生さんへの質問「今の落語を聞いての感想は」

学生の中から、

・声の大きさ、声のスピード感があり聞き取りやすさがある。

・声に表情があるのに驚いた。

・噺を聴きながら場面のイメージが湧いてくるのに感動した。

その発表を聴いて師匠からは、

・断すときは、聴く人を意識し、飽きさせないために、声の大きさ、小ささ等に配慮している。また、聴く人を惹きつけるための声の抑揚、声のスピードとして、大切なことを話すときにはゆっくりと間を開けるために、噺の緩急にも細心の注意を払っている。また、家の内外での会話にしても、声の奥行き、高低というものがあると、具体的な語りを入れて説明されました。

落語に、授業と同じように、出囃子で入場、導入は、枕・授業に入っては、噺に集中させるために聴く人のニーズに合致します。

また、師匠から「何か質問は」との呼びかけに、学生さんからは、

・「枕」について、授業で言えば導入としての「枕」で気を付けているものは、

・落語における「間」、どのような反応から間を取るか。



・落語の技術を上げるために、日頃から気を付けていること。ネタ集めの方法は、

その回答として、「特に会場の雰囲気、笑い声、観客の所作、を配慮して、落語は決まってしまう台本もなく、一人喋りだから臨機応変に「間」を取ってお客の注目を図る。ネタ集めとして、リングやデパートのアナウンス、ニュースを読むアウンサー、テレビでのレッドカーペットとか、一人喋りに関するものであれば何でも取り入れようとしてアンテナを広角度に張っています。」と、会場の笑いを誘いながら楽しく説明されました。

また、「落語はただ単に噺を暗記していたのでは噺の幅、奥行きがなくて意味がない。目の前のお客さんといかに会話・コミュニケーションを図るかにあります。」と。

最後に、師匠から、「噺のプロとしての心構えは、不安を持って高座にあがると必ず失敗する。その為に私は稽古を一生懸命して、寝言で謔言が言えるぐらいに身体にたたき込んで高座に来ると、座布団に座った際の緊張感がなく、細心の気配りのきいた話が出来ると、まさしく台

本を二百パーセントの準備をして初めてお客さんに聴かせることが出来る。」、「今までこのような落語というものに触れたことがなかったのであればこの落語という話芸が将来何かのお役に立てば大変嬉しく思います。」と、柔らかな雰囲気の中で感謝の言葉を述べられ会話は終了しました。

終わって、女子学生さん達それぞれの座席で、「今日はよく笑ったね。楽しかったね。」との会話が弾んでいたことでも今日の学生のための「サポーター制度」は大成功であり、意義のあるものになりました。

※「愛媛大学教育学部サポーター制度」とは

教育学部の同窓生を中心に愛媛大学教育学部サポーター」として登録して頂き、教育学部の学生に対して多方面から支援を願おうという本年度からの試みです。

当面は、教育学部内でも重要な課題となつている事項について、毎年度講座を開設し、その講師にサポーターとして登録願う予定になっています。今年度はその第一弾として、「魅力的な話し方講座」を開設しました。



「教職支援ルーム」が開設されました

愛媛大学教育学部では、国公私立大学を通じた大学教育改革の支援事業、平成二十年度「質の高い大学教育推進プログラム（教育G P）」に申請をしていた本事業「教職課程のD Pに基づく全学的教員養成改革」が採択されました。

この採択事業は社会から求められている「質の高い教員の養成」という課題に 대응するために、愛媛大学は、**大学全体として責任を持った教員養成を行う**という方針を定め、教育学部を中核としながら大学全体で改革に取り組んでいます。その大きな理由は、教員の養成が「開放制」（教員養成系学部でも教員免許状を取得可能とする制度）を原則として行われていることにあります。教員として必要な資質や技能を持ちながら、多様な専門性を持った教員を育てることが教育現場には必要です。いろいろな得意分野を持つ個性豊かな教員が集まり、お互いに教え合い、刺激し合いながら子どもたちの教育に協働して携わることが活気のある学校を創ることになります。

教育学部では、本取り組みを大学全体で推進することにより、「開放制」の理念を尊重しながら質の高い教員養成を行うという教育改

革を進めています。「質の高い教員」を育てるためには、教員養成のキャリアグラムを通してどのような知識や能力を育てようとするのか、という理念を明確に持つことが重要です。養成する教員像については「教員課程のディプロマ・ポリシー（D P）」に示されています。この、卒業時に身につけておくべき知識・能力を保証するため、体系的なキャリアグラムの構築と個々の学生に対する学修の支援を整備します。

教育学部では十年以上にわたって大学周辺の教育機関などと連携し、また教育委員会の支援も得ながら「地域連携実習」という活動を継続してきています。この活動は、様々な期間、時間帯を使って参加できるため、教育学部以外で教員を目指す学生に対しても、実践から学ぶ機会を提供することが可能です。この「地域」連携実習を核としながら、教育学部で取り組んできた教育改革を大学全体に広げて、愛媛大学全体の教員養成カリキュラムを再構築します。また、教員を目指す全学部生が活用できる教職支援ルームを設置して、教員を目指す学生の学修や相談の場とします。こうした教育改革を進めることで、教員養成の基本的理念である「開放制」を実質化し、いろいろな得意分野を持つ、質の高い教員を養成します。

「愛媛大学 教職支援ルーム」にようこそ！

【場所】



愛媛大学教育学部二号館に入り一階直ぐ右に、「イヨカンへいい予感？Vの間」、「ミカンの間」と二つのルームがあり、全学部対象なので、今は頻繁に学生の出入りがあつて盛況です。

【担当スタッフ】



実習カリキュラム委員会委員長 山崎哲司教授のもとに、二人の新進気鋭の女性スタッフ
支援ルーム1 「イヨカンの間」に木村文先生



支援ルーム2 「ミカンの間」に杉原薫先生



がいらつしやいます。

【活動状況】

●平成二十一年度学習アシスタント
・放課後アシスタントのガイダンス開催と実施

四月十五日(水)の昼休みに、右記ガイダンスを地域連携実習の一貫として位置づけており、実習カリキュラム委員会が担当して説明会が開催されました。

この事業は、今は松山市内の小中学校を対象にしており、愛媛大学に推薦依頼を頂いた学校を大学生に紹介して、おおむね一年間の授業アシスタントを行います。

教育実習を終えている学生の皆さんを対象にしていて、説明会の会場は少人数対象の部屋を用意していたのですが、当日は部屋に入り切れないほどの参加者があり、大変熱気のある説明会になり

ました。

山崎哲司委員長の概要説明の後、地域連携実習担当の池野修先生が説明を行いました。ガイダンス後、各学校への推薦を行い、五月より活動を開始しています。

●平成二十一年度他学部対象の地域連携実習説明会を開催しました。

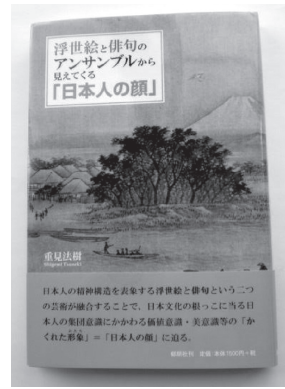
平成二十一年四月二十八日(昼休みに教育学部生以外の大学生・大学院生を対象とした地域連携説明会を開催しました。教員を目指す学生や子どもとふれあいを持たたい学生に参加を呼びかけたところ、約五十名の参加者がありました。

山崎委員長のあと、G Pの地域連携実習WGのリーダーである池野先生に、地域連携実習とは何か、過去の実践事例、獲得することができる教師としての力などを分かりやすく説明されました。

五月中旬、地域連携実習ガイダンスが開催され、その後県内の学校現場の教育活動に参加しています。

このように、教職支援ルームでは教育学部生は言うまでもなく学部生以外の学生にもきめ細かい支援を行っています。

寄贈図書



「浮世絵と俳句の

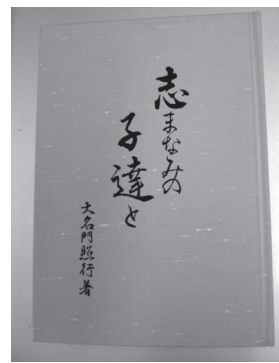
アンサンブルから見えてくる『日本人の顔』

寄贈者・著者 重見 法樹
発行者 佐藤 聡
発行所 株式会社東京文久堂
判型 B6版 一五七頁
※ 貸し出し可

私は前々から日本社会の文化・思想の深層に内在するアーキタイプ（かくれた形）の一部や表層に露出された影と出会いたいという願いを持っていました。それは、日本文化の根っこに当る浮世絵と俳句という芸術は、一民衆の生き方と離れられない集団意識にかかわる価値意識・美意識等の「かくれた形象」＝「日本人の顔」に迫る一歩になるよう願って論じてきました。従って、そのアプローチについては、筆者は紀貫之の「いき心」を問う以前に、芭蕉が南の方でなく、「奥の細道」を選んだのかを問いつつ——古今和歌集の扉を開けてみる事になりました。

春立つ けふの風やとくらん
（紀貫之・古今和歌集巻二）
彼らが袖のある着物を着て水を汲むもなく恋人その人よりも、恋人その人よりも、「心的もの思ナルテイジスムい」を大切にしている短歌的宇宙の永続化を図る文学観の上に立つ人々は仏教と神道の融合による＝神仏習合と言う怪物を大衆の中に浸透させ太らせていったのです。更にこの文学観に立つ人は「寺請制度」と合併させ盆と仏壇と墓を中心とする祖先崇の風俗の中にセメント化にするに至るようになったのです。芭蕉はこの危機の中で、二回も家出しているのです。この二回の家出こそ寺請制度に屈服する事な

く、自然そのものの美の中にセツツルSette（入る）したのです。この芭蕉が「家出して奥の細道」の第一歩の「時」の近代文学者と浮世絵の出会いには俳句と浮世絵の出会いを正当な近代文芸に位置付けるのにまたとないチャンスにしたのです。しかし、日本国の歴史を室町時代以前の神世と古代を至上とする擬似的近代像を作り上げようとする負の施設官や負の官僚達に破壊される中でありながら「俳句」と「浮世絵」の出会いを実現させてくれたのは、芥川龍之介だったのです。そこで、芥川龍之介が発した言葉は「メッキ文化よ（明治政府）すぐに民衆に見つけられるぞ！」のアピールなのでした。



「志まなみの子達と」

寄贈者 大名門 照行
著者 大名門 照行
発行所 松栄印刷株式会社
印刷所 松栄印刷株式会社
※ 貸し出し可



「続東京の教育界における愛媛の人脈」

― 関東愛媛教育会
結成三十周年記念誌―
寄贈者 武田 敏文
編集兼 関東愛媛教育会会長
発行者 増岡 明
発行所 関東愛媛教育会

※ 希望者には無料にて贈呈
連絡〒三三三-1006三

さいたま市西区プラザ八一―四
同窓会関東支部事務局

武田 敏文

平成21年度

支 部 長 会 報 告

1. 日 時 平成21年5月30日(土) 10:30～14:00

2. 場 所 朋友会館(松山市道後樋又) 2F大会議室

3. 日 程 (1) 開会 あいさつ 会長・学部長
(2) 議長選出
(3) 議事

ア 会則改正について

イ 役員改選に関する件

★ 退任役員表彰

★ 新旧役員あいさつ

ウ 平成20年度行事報告

エ 平成20年度決算報告・監査報告

オ 平成21年度行事計画

カ 平成21年度予算案審議

キ 支部活動と助成金について

ク その他事務連絡(内規に関する事項・会報発送・会館利用・名簿等)

(4) 閉会 あいさつ 副会長



4. 主な話し合い事項

(1) 会則改正について

現在の同窓会を取り巻く情勢を検討し、約1年の検討をし、主に同窓会の「目的及び事業」「会員構成」「役員構成」「役員任期」等について検討が加えられ、支部長会で承認を得た。

(2) 支部活動の活性化について

昨年、支部活動をかに活性化するかについて支部長会の席で話し合われ、県下のトップを切って、伊予支部が昨年12月14日「はばたけ伊予っ子」の旗印の下伊予支部同窓会主催、会員一人一役で「伊予地区児童生徒の芸能・文化活動」の発表会を開催し、大成功を納めた事例をもとに話し合った。

(3) 「支部活動特別助成金」について

支部活動をより活性化するための具体的な方策として、上記にある「支部活動特別助成金」を設置し、予算化した。その為の資料として、「伊予支部活動の資料」「支部活動特別助成金交付要綱」と「申請手続き」を提示した。

以上

平成 21 年度 行 事 計 画

4. 6 (月)	平成21年度愛媛大学入学式	教育学部入学生 233名 大学院生 45名
4 月 下 旬	平成20年度会計監査	平成21年 4 月13日 監査実施
5. 9 (土)	第 1 回理事会	平成20年度行事、決算報告 平成21年度行事計画及び予算審議 会則改正・役員改選案について審議
5. 30 (土)	支部長会	平成21年度本部役員改選 平成20年度行事、決算報告 平成21年度行事計画及び予算審議
6. 10 (水)	第 1 回編集委員会	会報108号 校正
7. 1 (水)	会報108号発行	9,200部
8. 1 (土)	第 2 回理事会	前期同窓会活動と後期活動について
8. 29 (土)	第 1 回常任理事会	後期活動について
1. 9 (土)	第 3 回理事会	行事の反省と新年度諸計画について
1. 13 (水)	第 2 回編集委員会	会報109号 校正
2. 1 (月)	会報109号発行	9,300部
2. 24 (土)	第 2 回常任理事会	21年度行事活動反省、次年度重点活動目標設定について
3. 24 (水)	平成21年度卒業式	

平成20年度 決 算 書

平成21年度 予 算 書

(収入の部)

△…減

費 目	予 算	決 算	増 減	摘 要
1. 会 費	200,000	0	△ 200,000	
2. 終身会費	5,400,000	5,180,000	△ 220,000	入学者 259 名
3. 雑 収 入	140,000	226,904	86,904	利息、寄付金等
4. 繰 越 金	3,459,639	3,459,639	0	
計	9,199,639	8,866,543	△ 333,096	

(収入の部)

△…減

費 目	本 年 度	前 年 度	増 減	摘 要
1. 会 費	0	200,000	△ 200,000	
2. 終身会費	5,000,000	5,400,000	△ 400,000	入学者 232 名+18 名
3. 雑 収 入	200,000	140,000	60,000	利息、寄付金等
4. 繰 越 金	2,671,843	3,459,639	△ 787,796	
計	7,871,843	9,199,639	△ 1,327,796	

(支出の部)

費 目	予 算	決 算	増 減	摘 要
1. 会 議 費	900,000	469,776	430,224	支部長会・理事会
2. 旅 費	650,000	463,900	186,100	支部長会
3. 印 刷 費	1,200,000	1,197,500	2,500	会報年 2 回
4. 通 信 費	700,000	339,330	360,670	会報発送、連絡費
5. 慶 弔 費	200,000	36,246	163,754	
6. 給 与 費	800,000	800,000	0	
7. 備 品 費	450,000	54,174	395,826	
8. 消 耗 品 費	600,000	82,220	517,780	封筒、ラベル・コピー代等
9. 支 部 助 成 費	700,000	444,700	255,300	
10. 卒 業 記 念 費	400,000	374,850	25,150	文鎮
11. 国 際 交 流 基 金	250,000	250,000	0	
12. 雑 費	300,000	181,164	118,836	
13. 積 立 費	1,000,000	1,000,000	0	
14. 予 備 費	1,049,639	500,840	548,799	支部特別活動助成
計	9,199,639	6,194,700	3,004,939	

(支出の部)

費 目	本 年 度	前 年 度	増 減	摘 要
1. 会 議 費	850,000	900,000	△ 50,000	支部長会・理事会
2. 旅 費	600,000	650,000	△ 50,000	支部長会
3. 印 刷 費	1,300,000	1,200,000	100,000	会報年 2 回
4. 通 信 費	650,000	700,000	△ 50,000	会報発送、連絡費
5. 慶 弔 費	200,000	200,000	0	
6. 給 与 費	800,000	800,000	0	
7. 備 品 費	600,000	450,000	150,000	
8. 消 耗 品 費	500,000	600,000	△ 100,000	封筒、ラベル、コピー代等
9. 支 部 助 成 費	600,000	700,000	△ 100,000	
10. 卒 業 記 念 費	400,000	400,000	0	文鎮
11. 国 際 交 流 基 金	250,000	250,000	0	
12. 雑 費	200,000	300,000	△ 100,000	
13. 積 立 費	0	1,000,000	△ 1,000,000	
14. 予 備 費	921,843	1,049,639	△ 127,796	支部活動助成費を含む
計	7,871,843	9,199,639	△ 1,327,796	

平成 21 年度 役 員 表

愛媛大学教育学部同窓会

本 部	顧問	壽 卓 三・兵 頭 寛		監 事	岡 本 純 輝		常任幹事	菅 田 顕
	会長	奥 定 一 孝			替 地 和 人			
	副会長	高 橋 治 郎	峯 本 高 義	村 上 朋 子	友 近 温 寿	垂 水 葉 子		
	理 事	池 内 謙 三	増 池 武 雄	森 貞 聰	升 田 守	満 田 泰 三		
		水 口 敬	郷 田 光 生	山 下 雅 司	菊 川 國 夫	石 丸 淳		
		石 尾 憲 弘	鎌 田 サチ子	和 田 和 子	阿 部 晋	押 岡 佳 子		
菊 池 晶 子		橋 村 誠	正 岡 義 憲	山 本 千 鶴子	烏 谷 真由美			
	白 石 久美子	大 森 尚 慶	在 間 正 樹	松 浦 道 子	香 川 育 代			

支 部 名		支 部 長		副 支 部 長		副 支 部 長	
四 国 中 央 市	川之江・新宮	三 好 伊佐子	金生第一小	好 井 邦 嘉	川 滝 小	松 本 謙 吉	川之江小
	伊予三島	鈴 木 恵 子	中之庄小	河 村 岳 則	寒 川 小	細 川 真 弓	中曾根小
	土 居	和 田 貴臣男	小富士小	潮 見 順 子	北 小	井 川 幸 子	北 小
新 居 浜	浦 江 賢 治	東 中	濱 田 英 稔	泉 川 小	佐々木 篤 志	大生院中	
西 条	伊 藤 俊	大 町 小	蔵 田 満 隆	西 条 西 中	加 藤 美 江	飯 岡 小	
東 予・周 桑	井 上 芳 春	多 賀 小	秋 山 穂 積	周 布 小	磯 明	丹 原 小	
今 治	橋 田 一 美	別 宮 小	菅 政 治	波 方 小			
今 治・越 智	金 本 圭 介	上 浦 中	神 野 武	大 西 小	井 原 涉	吉 海 中	
松 山・北 条	倉 橋 健 二	正 岡 小	永 野 幸 男	北 条 小	白 石 幸 枝	立 岩 小	
松 山	岡 本 純 輝	潮 見 小	後 藤 陽 三	久 枝 小	森 健	中 島 中	
東 温	平 松 恭 助	東 谷 小	本 田 隆 彦	上 林 小	富 長 千 恵美	西 谷 小	
伊 予	石 丸 幸 子	北 伊 予 小	渡 辺 正 治	岡 田 中	田 中 勝 子	玉 谷 小	
上 浮 穴	渡 邊 裕 子	面 河 小	小 野 敏 信	久 万 中	曾 根 道 生	久 万 小	
大 洲	菊 池 文 恵	新 谷 小	森 永 茂	大 洲 小	垣 見 節 子	喜 多 小	
喜 多	小 野 誠 一	小 田 中	坂 田 康 弘	田 渡 小	藤 原 雅 彦	石 畳 小	
八 幡 浜	河 野 和 恵	日 土 小	岩 井 源 一	松 蔭 小	上 田 純 子	松 柏 中	
西 宇 和	長 野 照 道	伊 方 小	道 岡 喜 好	九 町 小	辰 野 晴 美	佐 田 岬 小	
西 予	勇 功	大 和 田 小	浅 野 尚 也	田 之 筋 小	三 好 知 子	二 木 生 小	
宇 和 島	河 野 通 夫	三 浦 小	矢 野 淳 一	二 名 小	清 家 美 津子	天 神 小	
北 宇 和	山 口 眞理子	松 野 東 小	永 井 悟	松 野 南 小	古 谷 玲 子	好 藤 小	
南 宇 和	井 上 洋 子	平 城 小	安 岡 宏 次	一 本 松 中	松 本 清 隆	平 城 小	
附 属	香 川 育 代	附 特 別 支 援					

県 外 支 部	東 京	兼 頭 吉 市	山 下 正 洋	森 孝 枝
	京 都	河 野 直 樹		
	大 阪	本 宮 久	神 垣 鉄 雄	杉 山 容 子
	神 戸	木 原 孝 造	平 山 昇	加 登 康 智

編 集 委 員	菅 田 顕	峯 本 高 義	菊 川 国 夫	村 上 朋 子	山 下 雅 司
---------	-------	---------	---------	---------	---------

会報送料・寄付者名

平成21年1月～5月

岡伊五五久渡門石鈴藤竹松兵石森渡森高渡大田和坪風呂秋佐白明尾明横高井窪真内大
部藤崎崎米部川黒木田本本藤村実邊野辺野中田内井山伯石神原神手橋原大志重誠守葉
純和カ小功美キ輝静豊公正スマ十三タ久純和幸正マ博綱克大志重誠守葉
子始子朗浩子合宣子又子明夫子昭緑介徳子日子雄一男混世子郎カ昭市紘蔵子治子彌子

原稿募集

次号 第一〇九号
短くても結構です。多くの
方々のお気軽なご寄稿をお待ち
しております。

- 「今、教育に思うこと」につ
いて、ふるってご投稿下さい。
★ 同期会や支部同窓会などの
集会や活動について
★ 恩師・先輩・同僚の訪問や
思い出について
★ 職場の近況や所感や活動に
ついて
★ 文芸(随想・俳句・川柳・
短歌・詩等)について
★ 会員便り
1 旅行記 4 この頃思うこと
2 季節便り 5 忘れ得ぬ人など
3 教育雑感
※ 投稿が多数になった場合に
は、編集委員会で選ばせてい
ただきますので、ご了承ください。
★ 原稿〆切 十一月三十日
発行 二月一日 予定
★ 依頼者以外は千二百字厳守
四〇〇字詰原稿用紙の一行
を十五字にして書いて下さ
い。
★ 写真
筆者の顔写真を添付して
ください。顔写真以外で内
容に関連した写真もあれば
送ってください。

敬弔

(物故会員)

Table with columns for names, dates of death, and names of donors. Includes names like 須賀浩, 高市キヌエ, 和田善行, etc.

**愛媛大学・(財)白楊会館
結婚相談所・MCC
(Marriage Counseling
Center) からお知らせ**

結婚相談してみませんか

♡素敵な出会いを♡

皆様の幸せな結婚を願っています。
どうぞお気軽にご相談ください！
多数のお申し込みをスタッフ一同
お待ちしております！

申し込み手続きについて

● 申込書 MCCにある用紙にご記入のうえ、身上書一部を添付してください。なお、申込書については、MCCにご請求ください。

● 写真二〜三枚。

(一年以内に撮影したカラーでサービス版程度のスナップが望ましい。)

費用について

● 申込金一万円、諸経費二万円(三年間有効)、計三万円が必要です。

これについては、同封の郵便局振込用紙を使用して振り込み、領収書を同封してください。
なお、三年経過後の継続は、諸

経費の二万円を同様の方法で振り込んでください。
● お見合い費用は、双方のご負担と致します。
● 結婚ご成立の際は、双方から二万五千円ずつ、計五万円をいただきます。

連絡は

毎週水曜日

午後一時から午後五時まで

電話番号 (FAX兼用)

(089) 923-7210

mailaddress:

info@hakuyou.or.jp

愛媛大学・(財)白楊会館

結婚相談所・MCC (Marriage Counseling Center)

〒790-0825

愛媛県松山市道後樋又十番十三号

TEL (FAX兼用)

(089) 924-7910

**朋友会館の
利用案内**

一、申込み方法

(1) 宛先

〒790-8577

松山市文京町三

愛媛大学教育学部

同窓会事務局

Tel 089-927-9383

学務チーム内同窓会係

(2) 方法

電話又は、はがき等文章でも可。但し、同大学内の「財務部財務企画課総務・照査チーム」作成の申込書(使用許可書)に必要事項を記入するため連絡方法を明記してください。

(3) 申込期間

余裕をもって申込みと確定、少なくとも五日前までに

二、利用資格

大学の教職員及び同窓生

三、利用施設

● 会議 (大小四室)・会食

● 宿泊 (ツイン四室、シングル八室、和室八畳、十畳各一室)

四、食事・料理

料理、飲みもの共に可能

四、食事・料理
料理、飲みもの共に可能

放送大学

10月生募集のお知らせ

放送大学では平成二十一年度第二学期(十月入学)の学生を募集中です。

放送大学はテレビ等の放送を利用して授業を行う通信制の大学です。

心理学・福祉・経済・歴史・文学・自然科学など、幅広い分野を学べます。

働きながら学んで大学を卒業したい、学びを楽しみたいなど、様々な目的で幅広い世代、職業の方が学んでいます。

○ 十五歳以上の方なら、一科目から学習する選科履修生・科目履修生として入学できます。

○ 十八歳以上の大学入学資格をお持ちの方なら、無試験で全科履修生として入学

○ 十八歳以上の大学入学資格をお持ちの方なら、無試験で全科履修生として入学

でき、四年以上在学して、百二十四単位を修得し卒業すると、学士(教養)の学位を取得できます。

○ 一つの分野を体系的に学びたい方には「放送大学エクスパート」を実施しています。

出願期間は八月三十一日まで。

資料を無料で差し上げています。お気軽に放送大学愛媛学習センター(☎089-923-8544)までご請求下さい。放送大学ホームページでも受け付けております。

資料請求・お問い合わせ先
放送大学愛媛学習センター
☎089-923-8544
<http://www.u-air.ac.jp>

